

科目名	倫理学	担当教員	清水 俊
-----	-----	------	------

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		大学や専門学校で倫理学・哲学を担当し、またフィールドワーク調査してきた経験を活かし、専門家に必要な倫理や論理的思考を教えることができる。									
授 業 概 要		基礎から倫理について学び、倫理の必要性や考え方、現代の問題への応用について学習する。									
到 達 目 標		倫理的な考察力を身に着ける。新しい課題に直面した時、自ら考えられる論理的判断力を身に着ける。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	嘘をつくこと(教科書第1節)			カントの考えなどから、「常にすべきこと」という義務について学ぶ。							
2	功利主義(2節)			功利主義的な考え方と、その問題点について学ぶ。							
3	薬の配分方法(3節)			「誰かしか助けられない」ような問題について、自ら考えて答えを出してみる。							
4	エゴイズム (4節)			エゴイズムがどこまで許されるのか、エゴイズムとは何かについて考える。							
5	幸福の計算 (5節)			功利主義の習性案について学ぶ。							
6	判断能力と価値判断 (6節)			判断能力とは何か、それをだれが判断できるのかについて考える。							
7	価値判断と事実判断(7節)			価値がどのように導き出せるかについて学ぶ。							
8	正義の原理 (8節)			正義の原理が定められるかどうかについて学ぶ。							
9	思いやりからの道徳 (9節)			思いやりだけで道徳が成立するか考える。							
10	四人のジレンマ (10節)			正直者が損をしないためにはどのようにしたらいいか、それが可能かを考える。							
11	愚行権 (11節)			愚かな行為をする権利はどこまであるか、愚かな行為に対してどこまで介入していいのかについて考える。							
12	貧しい人への義務 (12節)			貧しい人、困っている人に対して助けるべきか、誰が助けるべきかについて考える。							
13	未来の人への義務(13節)			未来の人々に対する義務のあり方について学ぶ。							
14	正義の変化 (14節)			時代や文化による正義の違いについて考える。							
15	科学の限界 (15節)			科学の発展に限界を設けるべきかどうかについて考える。							
準備学習(予習復習)の具体的な内容		教科書を読んでおく。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教 科 書		現代倫理学入門(講談社学術文庫)									
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名	基礎科学	担当教員	緒方 茂・岩北 耕三
-----	------	------	------------

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	大学院修士課程において細胞生物学及び解剖学、運動解析学を履修した専任教員が医学の基礎となる生物学、物理学(生体力学)についての講義を行う。大学院における研究内容の経験を活かし、より専門的な知識を教授する。
-----------	--

授 業 概 要	物理・生物の分野において、医学の基礎となる生体力学や細胞生物学の講義を中心に授業形式で行い必要な知識を習得していく。物理・生物としての人間理解を深める
---------	---

到達目標	細胞の構造と機能および細胞分裂について説明できる。遺伝子の構造と遺伝子発現のしくみの基礎的知識が説明できる。物体の運動について説明でき、また運動とエネルギーの関係について説明できる。
------	---

授 業 計 画

回	テーマ	授 業 内 容
1	力学の基礎①	基本単位と組立単位
2	力学の基礎②	ベクトル：力の合成と分解
3	力と運動①	時間と空間 変位 速度 加速度
4	力と運動②	運動の法則
5	仕事とエネルギー	仕事とは 力学的エネルギー 位置エネルギー エネルギー保存の法則
6	生体力学への応用	身体とてこ：人体の関節運動におけるモーメント
7	生体力学への応用	重心：重心の合成と位置の求め方
8	生物学における構造と機能	生命現象の捉え方 形の研究(大きさの概念) 生命現象の研究法
9	細胞とその構造	真核生物と原核生物について
10	細胞の化学成分	水、タンパク質、核酸、脂質、炭水化物、無機塩類 細胞膜の輸送
11	生体内の化学反応	ATPの生合成 解糖系 酸化的リン酸化
12	細胞分裂	新各節物の染色体の構造 体細胞分裂 細胞分裂の周期
13	組織と器官	脊椎動物の組織
14	遺伝情報とその伝達の仕組み	染色体と遺伝子 DNAとその複製 RNAの情報伝達
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習）の 具体的な内容	教科書を読んでおく
-----------------------	-----------

成 績 評 価	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%)
	☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()

教科書	生物学[カレッジ版] 第2版：医学書院 基礎運動学 第6版 医歯薬出版
-----	--

参 考 書	
-------	--

授業の留意点・備考	主体的に学ぶことを前提とし、積極的な姿勢で受講すること。
-----------	------------------------------

科目名	情報処理	担当教員	山下 雄一郎（非常勤講師）
-----	------	------	---------------

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		私は日頃からクライアント向けに、Wordで仕様書や報告書、Excelで分析レポート、PowerPointで企画書や提案書を作成し、情報を処理・提供する業務を行っています。これらの実務経験を活かし、学生に対して実践的な情報処理の学習を進めます。									
授 業 概 要		臨床現場は電子カルテが多く使用され始め、業種を問わずそのスキルが必要とされています。また、実習や学内での授業においても、レジュメ作成やレポート作成等にパソコンを使用します。当授業では、パソコンの基本操作をはじめ、ワード、エクセル、パワーポイントといった基本的なアプリケーションを使い方を教授します。									
到 達 目 標		●PCの基本的な操作方法を習得する。 ●実践的な文書作成や表計算方法、スライド作製方法を習得する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	文書作成①	(山下雄)		ワード文章にチャレンジする。実践練習問題1							
2	文書作成②	(山下雄)		ワード文章にチャレンジする。実践練習問題2							
3	文書作成③	(山下雄)		より実践的なワード文章の作成に必要なスキル習得 模擬問題 1 ～							
4	文書作成④	(山下雄)		より実践的なワード文章の作成に必要なスキル習得 模擬問題 2 ～							
5	表計算シート作成①	(山下雄)		表計算にチャレンジする。実践練習問題1							
6	表計算シート作成②	(山下雄)		表計算にチャレンジする。実践練習問題2・3							
7	表計算シート作成③	(山下雄)		より実践的な表計算作成に必要なスキル習得 模擬問題 1 ～							
8	表計算シート作成④	(山下雄)		より実践的な表計算作成に必要なスキル習得 模擬問題 2 ～							
9	表計算シート作成⑤	(山下雄)		より実践的な表計算作成に必要なスキル習得 模擬問題 3 ～							
10	表計算シート作成⑥	(山下雄)		より実践的な表計算作成に必要なスキル習得 模擬問題 4 ～							
11	スライド作成①	(山下雄)		メイン画面の名称と機能を把握する（アウトライン操作、図形作成、マスター管理）							
12	スライド作成②	(山下雄)		スライド作成（画像の挿入加工、グラフ作成、テーマ選択、スライド追加・入替等）							
13	スライド作成③	(山下雄)		プレゼンテーション準備（文字やグラフの見栄え整理、ノートの記入）							
14	スライド作成④	(山下雄)		プレゼンテーション実施（発表者スライド、レーザーポインターの表示など）							
15	総括とまとめ	(山下雄)		これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		授業初日にキーボード操作の確認を行いますので、各自キーボード操作が出来るようにしておくこと（350字程度）ページ数を決めて入力練習をするようにと伝える。									
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 10 % ） ☐ レポート （ % ） ☒ 課題 （ 90 % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ % ）									
教 科 書		30時間でマスター Office2021：実教出版									
参 考 書		Word文書処理技能認定試験 3級問題集【2016対応】：ウイネット Excel表計算処理技能認定試験3級問題集【2016対応】：ウイネット									
授業の留意点・備考		操作指示と異なる内容（関係の無いサイトの閲覧など）に講じた場合は、即退出させ欠席扱いとする。理解が早い生徒に関しては上位資格の試験対策を行います。									

学科	作業療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床・教育の領域において、臨床研究および基礎研究によるさまざまな研究デザインに対する統計的手法を実践できることにより、将来臨床に必要な統計リテラシーの学習を行う事が出来る。									
授 業 概 要		医学系とくにリハビリ領域における研究にて用いられる統計学的手法について学ぶ。例題をもとに電卓や統計ソフトを使用した簡単な統計学的手法を実践する。また身近なデータから統計手法を選択し考察を交えた推論ができるようになる。									
到 達 目 標		統計学の概要を大まかに捉えて、統計学の専門用語である正規分布や特性値、各統計的手法を理解できる。さらに例題を通して理解を深め簡単なデータにおける統計処理が出来るようになる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			統計学を学ぶ意義を理解する。							
2	統計学の概念と歴史			統計学の概念と過去の歴史から統計学がどのように人類に恩恵をもたらしたか理解する。							
3	データの種類と整理			各尺度の種類と特性を理解し、中央値・平均値・最大値・最小値・標準偏差などを理解する。							
4	データ整理とヒストグラム作成			例題のデータからヒストグラムを作成し、さらに正規分布の特性を理解する。							
5	名義尺度の変数に対する統計学的検定（１）			名義尺度の理解を深め、さらに名義尺度で使用する統計手法を覚える。							
6	名義尺度の変数に対する統計学的検定（２）			名義尺度の例題データを使用し、統計手法の選択から使用までを身につける。							
7	間隔・比率尺度の変数に対する統計学的検定（１）			間隔尺度・比率尺度の理解を深め、その統計手法が選択できるようにする。							
8	間隔・比率尺度の変数に対する統計学的検定（２）			間隔尺度・比率尺度における統計手法を選択できる手順を例題データから演習を通して覚える。							
9	間隔・比率尺度の変数に対する統計学的検定（３）			間隔尺度・比率尺度における統計手法を選択できる手順を例題データから演習を通して覚える。							
10	順序尺度の変数に対する統計学的検定（１）			順序尺度の理解を深め、対応のあるデータで統計手法が選択でき結果まで出せるようにする。							
11	順序尺度の変数に対する統計学的検定（２）			順序尺度の理解を深め、対応の無いデータで統計手法が選択でき結果まで出せるようにする。							
12	順序尺度の変数に対する統計学的検定（３）			例題を通して統計手法を身につける							
13	相関・回帰直線（１）			相関分析の概念とその流れを理解する。							
14	相関・回帰直線（２）			例題を通して演習において相関分析・回帰分析を身につける。							
15	まとめ			レポート及び定期試験のオリエンテーション							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		その日に学習したものを、教科書や資料を確認しながらしっかり復習するように									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 20 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		対馬栄輝他『リハビリテーション統計学』中山書店									
参 考 書		渡邊宗孝他『PT・OTのための統計学入門』、三輪書店 杉山高一他『保健・医療を学ぶ人のための統計学』徇文社 対馬栄輝『SPSSで学ぶ医療系データ解析』東京図書									
授業の留意点・備考		・講義ではデータ処理にて数を扱うが、数字に対して苦手意識を持たず取り組むこと。 ・「なぜ、このような統計学的手法が必要なのか」という意識を持ちながら授業に臨むこと。									

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		中学校・高等学校の保健体育指導および社会教育施設でのスポーツ指導の経験を活かし、子どもから高齢者に対する運動の必要性やスポーツの特性について、講義・演習を行うことができる									
授 業 概 要		講義や実技を通して、健康の維持・増進に関する基礎的知識を学習し、各種スポーツの特性や技術およびトレーニングの方法についても理解を深め、スポーツの有効性について学ぶ									
到 達 目 標		健康の定義や運動の必要性を説明できる。安全に楽しく運動ができる方法を習得する事ができる。障がい者スポーツの種類とルールについて説明できる。レクリエーション・スポーツの実施計画を作成することができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			授業概要、達成目標、評価方法、授業の注意点、自己紹介							
2	健康と運動			健康の定義および社会環境と体力について							
3	トレーニング①			無酸素性のトレーニングとその効果							
4	トレーニング②			有酸素性のトレーニングとその効果							
5	心理的スキル			メンタルトレーニングの必要性							
6	準備運動・体操			準備運動の必要性および実践							
7	障がい者スポーツ①			障がい者スポーツの種目・特性							
8	障がい者スポーツ②			ボッチャの特性およびルール・体験							
9	スポーツ・レクリエーションの実施計画①			スポーツ・レクリエーションの実施計画作成							
10	スポーツ・レクリエーションの実施計画②			スポーツ・レクリエーションの実施計画提出							
11	スポーツ・レクリエーション①			ソフトバレーボールの計画・実施							
12	スポーツ・レクリエーション②			車いすバスケットボールの計画・実施							
13	スポーツ・レクリエーション③			卓球の計画・実施							
14	スポーツ・レクリエーション④			バドミントンの計画・実施							
15	まとめ			授業で扱った内容について筆記試験							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		運動のできる服装・体育館シューズ									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 50 % ） ☒ 実技試験 （ 30 % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ 10 % ） ☒ 課題 （ 10 % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		なし									
参 考 書		健康・運動・スポーツのTopics(八千代出版)									
授業の留意点・備考		体を動かす為、体調管理に努めること。 体調が良くない場合は無理をせず担当教員に伝え見学すること。 運動を実施する場合は積極的に参加すること。									

科目名	対人関係論	担当教員	水野 直樹
-----	-------	------	-------

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		【水野直樹】キャリアコンサルタント、人材育成講師、ラジオパーソナリティの経験を活かし、学生の自己理解のグループワークや臨床現場でのコミュニケーションスキルについて講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		コミュニケーションに必要な要素を分野別に探究する。									
到 達 目 標		1. コミュニケーションの基礎知識を理解できる。 2. ホスピタリティマインドを身につけたコミュニケーションを図ることができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	コミュニケーションとは			言語的・非言語的コミュニケーションについて理解する。							
2	良好なコミュニケーションの要素①			自分の内面と向き合うための演習。							
3	良好なコミュニケーションの要素②			対象となる人物に届く手段を手に入れる。							
4	傾聴とは①			傾聴の意味を知る。							
5	傾聴とは②			傾聴を体験する。①							
6	傾聴とは③			傾聴を体験する。②							
7	報告・連絡・相談			3つの明確な区別を知り、対象となる人物の情報を整理する。							
8	看護場面で求められるコミュニケーション			臨床現場での実践と自分の課題を知る。							
9	行動変容のための言葉かけ			ケアの対象との相互作用に着目し、専門職としての実践力をつける。							
10	患者・看護師間の相互作用			実践を客観的に分析することにより、その必要性を学ぶ。							
11	チームにおけるコミュニケーション			同じ目的を持つチームのリーダーシップ、メンバーシップについて学ぶ。							
12	ホスピタリティ視点での接遇コミュニケーション			ホスピタリティマインドを学び、サービスとの使い分けをする。							
13	クレーム対応とAngerマネジメント			気持ちと言葉の相関関係を学ぶ。							
14	メンタルヘルスとコミュニケーション			自己理解をもとに、のセルフケアについて考える。							
15	試験			まとめと解説							
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☒ 課題 （ 20 % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		リハベリック コミュニケーション論・多職種連携論（医歯薬出版）									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考											

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		10年以上におよぶ専門学校での教育経験と広報に携わった経験を活かし、医療人としての心構えや今後の学校生活に必要な学習の進め方などの指導ができる。また、看護学科教員や元高校教諭経験者と共にチームワークの考え方やノートの取り方等の講義が実施できる。									
授 業 概 要		専門学校における学習の意義や心構え、基本的なスタディースキルを習得することを狙いとし、ここで得られた基本的学習スタイルは、全ての専門教科・専門基礎教科を学ぶための共通技能となる。また、学校生におけるルールやそれを守ることの意義、過ごし方についても考える。									
到 達 目 標		専門学校における学習の意義について説明できる。授業を受ける上での心構えについて説明できる。効果的な集中の仕方・記憶の方法について実践できる。効果的な文献の読み方、専門書の活用の仕方、学習補助ツールの活用について実践できる。効果的な自宅学習の進め方・ノートの取り方について実践できる。あらためて自己目標を見つめ直す。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション (大石・菊池)			オリエンテーション。医療人としての倫理観など、心構えについて学ぶ ◆課題：感想を提出する							
2	学校生活におけるルールについて① レポートの書き方とルール (大石)			レポート表紙の書き方やレポート提出のルール、レポート表紙規定やレポート本文規定について学ぶ ◆課題：前回の授業の課題をに表紙を付け提出する							
3	文章の書き方について (大石・西本)			前回提出した課題（感想文）を元に文章の書き方を学ぶ							
4	学校生活におけるルールについて② 図書室の利用について (大石)			基本的な図書室の利用方法について学ぶ							
5	書籍の活用法 (大石)			図書室で興味ある雑誌を選び、文章の書き方（3回目講義）を元に感想をレポートとして提出する							
6	ノートの取り方① (大石)			ノートのまとめ方について学び、演習する							
7	ノートの取り方② (大石)			ノートのまとめ方について学び、演習、発表する							
8	動画の内容のまとめ方について① (大石)			動画視聴した場合のノートのまとめ方について学ぶ							
9	動画の内容のまとめ方について② (大石)			動画視聴した場合のノートのまとめ方について演習する 提出課題とする							
10	模擬講義（未学習の疾患を体験する）① 模擬講義の内容をノートにまとめる (大石)			授業におけるノートのまとめ方応用編、演習する							
11	模擬講義（未学習の疾患を体験する）② 模擬講義の内容をノートにまとめる (大石)			授業におけるノートのまとめ方応用編 小テストの活用について学び、演習、提出する							
12	学校生活における学びとの向き合い方① 目標設定 (大石)			これまでの学習内容と想定していた内容とのギャップについて考え、他者の意見を統合する							
13	学校生活における学びとの向き合い方② 目標達成を考える (大石)			これまでの学習内容と想定していた内容とのギャップについて考え、今後の学校生活についての学びを主観的に捉える							
14	事例課題 (大石)			学校生活あるあるについて、事例を通し、考え、解決方法についてグループ討議とし、今後の学校生活に活かす							
15	事例課題・総合まとめ (大石)			学校生活あるあるについて、事例を通し、考え、解決方法についてグループ討議とし、今後の学校生活に活かす→総合まとめ、課題提出							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		ここで学んだ内容を、日々の学習や学校生活に活かすこと									
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ %） ☐ 実技試験 （ %） ☐ 小テスト （ %） ☒ レポート （ %） ☒ 課題 （ %） ☒ 発表 （ %） ☒ その他（レポート/課題/発表を総合し100%の評価とする）（ %）									
教 科 書		なし ※資料は教員が準備します									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		参加型の授業の際は、学生同士で積極的に意見を交わすこと									

科目名	総合教育Ⅱ/キャリアワーク	担当教員	越地 真一郎
-----	---------------	------	--------

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		新聞社での取材・編集や、それを生かした教育現場でのN I E（教育に新聞を）活動									
授 業 概 要		どんな仕事（職種）であれ、それを行っていく上で必要とされる力＝社会人基礎力を磨く。「社会を知る⇒考える⇒伝える」という学習サイクルを重視し、実社会につながる実践的な学びを目指す。									
到 達 目 標		・国内外や地域のさまざまな問題に目を向け、社会人としての“常識”を身につける。 ・グループ活動の中で相手の思いを理解し、自分の考えを的確に言えるようになる。 ・発表や討論に慣れ、アドリブでの対応を怖がらないようになる。									
授 業 計 画											
回	テーマ（順不同）			授 業 内 容（順不同）							
1	社会に目を向ける			ニュース穴埋め＋コメント							
2	「伝える」から「伝わる」へ			相手に届く伝え方							
3	答えは一つじゃない			「正解のない問い」にどう答えるか							
4	要約のワザ			言いたいことは何か～要点をつかむコツ							
5	結論ファースト			結論を先に示し、理由・根拠を後で述べる表現法							
6	言葉に強くなる			記事の見出しを組み合わせた川柳づくりなど、ゲーム感覚で言葉に親しむ							
7	シンボン（新聞×本）バトル			活字メディア（新聞と本）を組み合わせたプレゼンテーション大会							
8	まとめ			授業総括、課題文作成							
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		日頃からニュース（世の中のいろいろな出来事）に関心を持つこと。									
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 50% ） ☐ レポート （ % ） ☒ 課題 （ 50 % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		なし									
参 考 書											
授業の留意点・備考		人前で話したり、文章を書くことに対する苦手意識を捨てること。 「習慣は才能を超える」を信条に!!									

科目名	総合教育Ⅱ/キャリアワーク	担当教員	田畑 博敏
-----	---------------	------	-------

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	約35年にわたり、大学で「哲学」や「論理学」等の人文系科目の教育研究に従事した経験を生かして、文章表現・読解の指導ができる。
授 業 概 要	自分の意見や、調べた情報を、的確な文章に表現できることを目指す。そのために、語彙・文法の理解、資料分析の方法、文章読解の要点を学ぶ。手紙文や意見文の例を学び、自分で文章を書く練習をする。
到 達 目 標	本講義により、受講者は、日本語の文章を正しく読解し、その内容をわかりやすい日本語の文章に表現できるようになる。

授 業 計 画

回	テーマ（順不同）	授 業 内 容（順不同）
1	語句及び語彙	文章に出てくる語句・語彙の意味を正しく知る
2	文法	文法的に正しい言い方・表現法を学ぶ
3	資料分析	表やグラフ等の資料の分析方法を学ぶ
4	文章読解	文章読解の基本を学ぶ
5	文章読解	文章読解の技術を深める
6	手紙文	手紙文についての基本知識を学ぶ
7	意見文	意見文を読解し、自分で書いてみる
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

準備学習（予習復習）の 具体的な内容	参考書の指定部分を予め読む。授業内容を深めるため復習する。
成 績 評 価	☐ 定期試験 （ %） ☐ 実技試験 （ %） ☒ 小テスト （ 10 %） ☒ レポート （ 90 %） ☐ 課題 （ %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他 （ ）
教 科 書	基礎から学べる！文章力ステップ 文章検3級対応：公益財団法人日本漢字能力検定協会 文章検公式テキスト3級：公益財団法人日本漢字能力検定協会
参 考 書	
授業の留意点・備考	国語辞典（電子書籍で可）を持参すること。自分の考えを他者に伝えるにはどうすべきか、常に考えること。

科目名	国際コミュニケーション	担当教員	ジェフェリーアランケアンズ
-----	-------------	------	---------------

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		教育現場で培った経験を活かし、将来、医療現場で働く学生に学んでいて欲しい基礎的な知識を講義できる。									
授 業 概 要		医療及び看護の専門分野の英語文献資料を読解できる英語力を養う。									
到 達 目 標		To review and improve English communication skills, Build practical English vocabulary; Expand English communication ability. (英語のコミュニケーション能力を伸ばすため、英語の語彙力を確立する。英語のコミュニケーション能力を発展させる。)									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	Orientation			orientation (オリエンテーション)							
2	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Food							
3	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Japan							
4	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Shopping							
5	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Music							
6	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Transportation							
7	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Work							
8	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Family							
9	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Travel							
10	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Europe							
11	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Famous People							
12	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Sports							
13	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Home							
14	Vocabulary Practice (語彙の練習)			Communication Practice Topics -Health, Entertainment							
15	Examination										
準備学習 (予習復習) の具体的な内容		all instruction done in English (講義は英語で行われます) Students are expected to communicate in English (授業中、学生は英語でコミュニケーションをとることが望ましい) monthly vocabulary quizzes (毎月英語の語彙クイズを実施します)									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教 科 書		"Let's Talk About It" b y PERSON Longman Craig Drayton&Mark Gibbon									
参 考 書		適宜、示す									
授業の留意点・備考		a good "Learner's"dictionary will be needed by every student in every class (毎回、学習者用の辞書を持参すること。電子辞書でも構いません)									

科目名		解剖学Ⅰ						担当教員		竹本 舞		
学科	作業療法学科		年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野		教育内容		人体の構造と機能及び心身の発達					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			作業療法士として病院勤務した経験に基づき、作業療法士の視点で解剖学を講義する。									
授 業 概 要			人体を構成している各器官の成り立ちを理解する。解剖学Ⅰでは骨学について学ぶ。骨は、受動的運動器と称されるように、ヒトの運動に欠かすことのできない器官である。特に療法士にとっては運動器の理解は不可欠となるため、それらについて系統的に学習する。									
到 達 目 標			・解剖学の重要性がわかる。 ・運動器について理解する。 ・骨及び各部位の名称を理解し覚える。 ・人体の構成要素を理解する。 ・解剖学用語を理解し覚える。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	解剖学総論				解剖学の定義、解剖学を学習する目的、解剖学的位置、方向、身体部位を解剖学用語を用いて理解する。							
2	骨学総論				骨の形態、構造について理解する。							
3	骨学各論 肩甲骨・上腕骨				肩甲骨・上腕骨の構成と特徴を理解する。							
4	骨学各論 肘・前腕				肘・前腕の構成と特徴を理解する。							
5	骨学各論 手根骨・指骨				手根骨・指骨の構成と特徴を理解する。							
6	骨学各論 骨盤				骨盤の構成と特徴を理解する。							
7	骨学各論 大腿骨・膝蓋骨				大腿骨・膝蓋骨の構成と特徴を理解する。							
8	骨学各論 脛骨・腓骨				脛骨・腓骨の構成と特徴を理解する。							
9	骨学各論 足根骨・趾骨				足根骨・趾骨の構成と特徴を理解する。							
10	骨学各論 頭蓋骨				頭蓋骨の構成と特徴を理解する。							
11	骨学各論 脊柱				脊柱の構成と特徴を理解する。							
12	骨学各論 胸郭				胸郭の構成と特徴を理解する。							
13	関節・靱帯総論				骨の連結の関節の正常な構造と機能を学ぶ。							
14	関節・靱帯各論				上下肢の連結を安定性と可動性を理解する。							
15	まとめ				これまでの授業内容を復習し理解を深める。							
準備学習(予習復習)の具体的な内容			各骨をよく観察し、テキストと比較しながら立体的に捉えること。									
成 績 評 価			☒ 定期試験（ 60 %）☐ 実技試験（ %）☒ 小テスト（ 40 %）☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %）☐ 発表（ %）☐ その他()									
教 科 書			標準理理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 医学書院									
参 考 書			プロメテウス解剖学コアアトラス 医学書院									
授業の留意点・備考			毎回、授業開始時に小テストを実施するため復習をすること									

科目名	解剖学Ⅱ	担当教員	小野 厚美
-----	------	------	-------

学科	作業療法学	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		総合リハビリテーション病院での業務経験を活かし講義を行う。									
授 業 概 要		人体を構成している各器官の成り立ちを理解する。解剖学Ⅱでは筋学を学習する。筋は能動的運動器と称され、骨と筋とがヒトの動きを作り出している。特に療法士にとっては運動器の理解は不可欠となるため、それらについて系統的に学習していく。									
到 達 目 標		骨格筋の構造と機能を理解する。各筋の付着部（起始・停止）、神経支配を覚え、その作用を理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 筋学総論①			筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造、筋に関する構造、組織について学習する。							
2	筋学総論②			骨格筋の付着部（起始、停止）と作用について学習する。							
3	神経系①			骨格筋と運動に関する脳及び脊髄の構造を学ぶ。骨格筋の神経支配について学習する。							
4	神経系②			脊髄神経と上肢の筋に分布する腕神経叢について学習する。							
5	神経系③			脊髄神経と下肢の筋に分布する腰神経叢、仙骨神経叢について学習する。							
6	筋学各論 上肢の筋①			上肢帯（肩甲帯）の筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
7	筋学各論 上肢の筋②			上腕にある屈筋、伸筋の筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
8	筋学各論 上肢の筋③			前腕にある屈筋群、伸筋群の筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
9	筋学各論 上肢の筋④			手の内在筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
10	筋学各論 下肢の筋①			股関節周囲にある筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
11	筋学各論 下肢の筋②			大腿部にある伸筋群、内転筋群、屈筋群の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
12	筋学各論 下肢の筋③			下腿部、足部にある背屈筋群と底屈筋群、腓骨筋群の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
13	筋学各論 体幹の筋①			頭部、頸部にある筋の名称、構造と筋の働きについて学習する。							
14	筋学各論 体幹の筋②			胸部、腹部、背部にある筋の名称、構造と筋の働きについて学習する。							
15	まとめ			これまで学習したことを復習し、理解を深める。							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		小テストで確認していき各項の復習を欠かさず取り組み、確実に覚えていくこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 20 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院) プロメテウス解剖学アトラス (医学書院)									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		各自の身体や模型を用いて文字だけの理解ではなく、3次元でのイメージ構築できることを目標とする。									

科目名		解剖学Ⅲ				担当教員		遠山健一			
学科	作業療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		急性期、回復期、維持期リハビリテーション病院で勤務した経験を活かし、神経系の解剖について講義することができる。									
授 業 概 要		人体を構成している神経系の成り立ちを理解する。療法士に必要な不可欠な神経系について系統的に学習していく。神経疾患はリハビリで扱う代表的な部分である、疾患理解のために、各部位の位置関係、働きも学習していく。									
到 達 目 標		神経系の構造、位置関係を認識する。神経系の働きを理解する。疾患や検査、治療のために神経系の学習が必要であることを知る。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	神経系総論について				神経系の概要について学習する						
2	神経系の循環について				脳血管系と脳室について学習する						
3	脊髄について				脊椎や脊髄神経について学習する						
4	脳幹について				中脳・橋・延髄について学習する						
5	小脳について				小脳中部・小脳半球について学習する						
6	間脳について				視床、視床下部について学習する						
7	終脳について①				大脳皮質や灰白質について学習する						
8	終脳について②				大脳基底核や大脳辺縁系について学習する						
9	伝導路について①				下行性伝導路について学習する						
10	伝導路について②				上行性伝導路について学習する						
11	末梢神経について①				脊髄神経について学習する						
12	末梢神経について②				神経叢について学習する						
13	末梢神経について③				脳神経について学習する						
14	末梢神経について④				自律神経について学習する						
15	まとめ				これまでの授業内容を復習し理解を深める						
準備学習(予習復習)の具体的な内容		指定教科書の該当箇所について、事前に目を通しておく									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 小テスト (20 %) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他()									
教 科 書		標準理学療法学・作業療法論 専門基礎分野 解剖学 第5版：医学書院									
参 考 書		適宜資料を配布する									
授業の留意点・備考		小テストを実施するため、予習、復習を心がけること。									

科目名	解剖学Ⅳ	担当教員	吉永 一也
-----	------	------	-------

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	大学医学部（医学科・保健学科）並びに医療系専門学校において解剖学の講義・実習を長年担当した経験を活かし、理学療法士・作業療法士養成のための解剖学の講義を行うことができる。										
授 業 概 要	解剖学では人体を構成する各器官の構造と立体配置について学習する。そのうち、解剖学Ⅳでは医療および疾患の理解に必要な感覚器および内蔵諸器官の正常構造について系統的に学習する。										
到 達 目 標	・人体を構成する各器官の構造と立体配置を説明できる。 ・解剖学の基礎的知識を身につける。 ・解剖学の知識を各種検査や治療手技へ応用できる。										
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	感覚器系①			感覚器系の全体像、外皮について学ぶ。							
2	感覚器系②			視覚器、平衡聴覚器①について学ぶ。							
3	感覚器系③			平衡聴覚器②、味覚器、嗅覚器について学ぶ。							
4	循環器系①			循環器系の全体像、心臓について学ぶ。							
5	循環器系②			動脈系について学ぶ。							
6	循環器系③			静脈系について学ぶ。							
7	循環器系④			胎児循環、リンパ系について学ぶ。							
8	消化器系①			消化器系の全体像を学ぶ。							
9	消化器系②			消化管（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸）について学ぶ。							
10	消化器系③			消化腺（肝臓、胆嚢、膵臓）、腹膜について学ぶ。							
11	呼吸器系			鼻腔、（咽頭）、喉頭、気管、気管支、肺について学ぶ。							
12	泌尿器系			腎臓、尿管、膀胱、尿道について学ぶ。							
13	生殖器系			生殖系器官（男性生殖器、女性生殖器）について学ぶ。							
14	内分泌系			内分泌系器官（下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵島など）について学ぶ。							
15	まとめ			重要事項の復習							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		・毎回の講義内容について、教科書を一読しておく。 ・その日の講義内容を復習し、重要なポイントを整理しておく。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院）									
参 考 書		参考資料を適宜配布									
授業の留意点・備考		不明な点は、積極的に質問すること。									

科目名	生理学 I	担当教員	遠山 健一
-----	-------	------	-------

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	4	時数	60	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	臨床における各種疾患を解剖学及び生理学的視点から見て来た経験を活かし、理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士のための生理学の講義を行うことができる。
-----------	--

授 業 概 要	生理学は生命活動のしくみを解き明かすことを目的とした学問であり、解剖学と密接に関連した医学の基礎となるものである。まず、生命現象の基本となる細胞機能、ついで植物と動物に存在する機能、そして動物に特有な機能として、生理学を理解していく。
---------	---

到 達 目 標	生理学における重要事項を説明できる。器官・組織の機能とその仕組みを説明できる。生理機能と理学療法・作業療法・言語聴覚療法と関連を説明できる。
---------	--

授 業 計 画	
---------	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・PT, OTにとっての生理学	生理学とは
2	生命現象と人体 浸透圧、水分、体温①	身体の階層性
3	生命現象と人体 浸透圧、水分、体温②	生命現象、水
4	生命現象と人体 浸透圧、水分、体温③	体温、ホメオスタシスと負のフィードバック
5	細胞の構造と機能①	細胞の構造と機能
6	細胞の構造と機能②	静止膜電位と活動電位
7	神経の興奮伝導と末梢神経①	神経細胞の構造、興奮の発生と伝導
8	神経の興奮伝導と末梢神経②	末梢神経の種類
9	神経の興奮伝導と末梢神経③	自律神経
10	神経の興奮伝導と末梢神経④	シナプスにおける興奮の伝達
11	中枢神経①	中枢神経とは、脊髄
12	中枢神経②	脳幹、小脳
13	中枢神経③	間脳：視床と視床下部、大脳皮質
14	中枢神経④	脳の高次機能、大脳基底核、辺縁系、脳室と脳脊髄液・血液脳関門
15	筋と骨①	筋の分類、骨格筋

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	筋と骨②	心筋
17	筋と骨③	平滑筋
18	筋と骨④	骨
19	感覚①	感覚とは
20	感覚②	体性感覚
21	感覚③	内臓感覚
22	感覚④	特殊感覚
23	血液①	血球の組成、赤血球・白血球の役割を学ぶ(遠山)
24	血液②	血液の凝固・線溶、血漿成分、血液型を学ぶ(遠山)
25	血液③	非特異的生体防御、免疫反応、Tリンパ球・Bリンパ球を学ぶ(遠山)
26	血液④	自然免疫・獲得免疫、液性免疫・細胞性免疫を学ぶ(遠山)
27	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う(緒方・遠山)
28	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う(緒方・遠山)
29	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う(緒方・遠山)
30	まとめ	定期試験
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読んで予習をする。講義プリント、練習問題を復習し、小テストの準備を行う。
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 20 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第6版：医学書院
参 考 書		からだが見える 人体の構造と機能 MEDIC MEDIA
授業の留意点・備考		・授業中に講義内容と関連した復習、グループ学習を行うため、ノート等を準備しておく。 ・小テストは事前に告知するため準備しておく。小テストを欠席した場合は担当教員へ1週間以内にコンタクトをとること。コンタクトがない場合は評価対象外とする。 ・疑問点が生じたときは教科書や参考書、担当教員を積極的に活用すること。

科目名	生理学Ⅱ	担当教員	遠山健一・山下俊
-----	------	------	----------

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	4	時数	60	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床における各種疾患を解剖学及び生理学的視点から見て来た経験を活かし、理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士のための生理学の講義を行うことができる。									
授 業 概 要		生理学は生命活動のしくみを解き明かすことを目的とした学問であり、解剖学と密接に関連した医学の基礎となるものである。まず、生命現象の基本となる細胞機能、ついで植物と動物に存在する機能、そして動物に特有な機能として、生理学を理解していく。									
到 達 目 標		生理学における重要事項を説明できる。器官・組織の機能とその仕組みを説明できる。生理機能と理学療法・作業療法と関連を説明できる。									

授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	心臓と循環①					心臓の構造と働きを学ぶ(山下)					
2	心臓と循環②					心臓の自動性と刺激電動系について学ぶ(山下)					
3	心臓と循環③					心電図の記録法と各波形の意味を学ぶ(山下)					
4	心臓と循環④					心拍出量と血圧について学ぶ(山下)					
5	心臓と循環⑤					血圧の調節メカニズムを学ぶ(山下)					
6	心臓と循環⑥					微小循環における物質交換を学ぶ(山下)					
7	呼吸とガスの運搬①					気道の構造とその役割を学ぶ(山下)					
8	呼吸とガスの運搬②					呼吸運動と呼吸器気量の分画を学ぶ(山下)					
9	呼吸とガスの運搬③					ガス交換・ガス運搬を学ぶ(山下)					
10	呼吸とガスの運搬④					化学受容器と呼吸の調節を学ぶ(山下)					
11	腎臓と排泄①					腎臓の構造と役割を学ぶ(山下)					
12	腎臓と排泄②					尿の生成メカニズムを学ぶ(山下)					
13	腎臓と排泄③酸塩基平衡①					クリアランス、糸球体濾過量、腎血漿流量を学ぶ・血漿pH調節について学ぶ(山下)					
14	腎臓と排泄④酸塩基平衡②					畜尿反射と排尿反射を学ぶ・アシドーシスとアルカローシスについて学ぶ(山下)					
15	消化と吸収①					消化管の構造と消化メカニズムを学ぶ(遠山)					

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	消化と吸収②	消化液・栄養の吸収を学ぶ(遠山)
17	消化と吸収③	消化管ホルモン、消化管の調節を学ぶ(遠山)
18	消化と吸収④	肝臓、膵臓の構造と役割を学ぶ(遠山)
19	代謝と体温①	各栄養素の意義と代謝を学ぶ(遠山)
20	代謝と体温②	体温の調節と発熱メカニズムを学ぶ(遠山)
21	内分泌①	ホルモンの作用、種類、発現メカニズムを学ぶ(遠山)
22	内分泌②	ホルモンの分泌調節を学ぶ(遠山)
23	内分泌③	下垂体・視床下部・甲状腺・副甲状腺のホルモンを学ぶ(遠山)
24	内分泌④	副腎皮質・髄質・膵臓・性腺などのホルモンを学ぶ(遠山)
25	運動生理①	筋力と持久力、筋収縮のエネルギー源を学ぶ(遠山)
26	運動生理②	運動に伴う全身の変化、トレーニングと老化について学ぶ(遠山)
27	後期復習	小テストを利用して後期の復習を行う(山下・遠山)
28	後期復習	小テストを利用して後期の復習を行う(山下・遠山)
29	後期復習	小テストを利用して後期の復習を行う(山下・遠山)
30	まとめ	定期試験
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読んで予習をする。講義プリント、練習問題を復習し、小テストの準備を行う。
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 20 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第6版：医学書院
参 考 書		消して忘れない 生理学要点整理ノート（PT、OT必修シリーズ） 羊土社
授業の留意点・備考		授業中に講義内容と関連した練習問題を行う。次回講義前に小テストが行なわれるので、授業終了後は必ず復習すること。疑問点が生じたときは教科書や参考書、さらには教官を積極的に活用すること。 (山下：心臓と循環、呼吸とガスの運搬、腎臓と排泄) (遠山：消化と吸収、代謝と体温、内分泌、運動生理)

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	演習
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		患者の症状を生理学的側面から捉えるため、研修や大学院等で基礎的な生理現象の理解に努めてきた。									
授 業 概 要		1年次で学んだ生理学の知識を基礎とし、様々な環境に呼応する生体兆候の変化を主要なテーマとし、計測、結果の分析・解釈を行いレポートを作成する。内容の理解を確認するため演習問題を実施する。卒業研究の基礎のひとつとなる。臨床実習で求められる技術も含まれる。									
到 達 目 標		生理学の主要なテーマについて、実際に検査・測定することで理解を深める。 人の体と心を意識して、被験者の気持ちを理解し、人と接する態度を向上させる。 治療に役立つ生理学的データを得るための、科学的方法の基礎を身につける。 得た知見をレポートとして他の人に伝える能力を養う。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 体温調節			体温調節の生理学							
2	体温調節			体温調整の生理学							
3	体温調節			体温調節の生理学							
4	身体組成			身体組成モデルと基本的な身体計測額の指標							
5	身体組成			身体組成指標とその測定方法							
6	身体組成			身体組成計測							
7	血圧測定			血圧の原理と取り扱い方							
8	血圧測定			血圧の原理と取り扱い方							
9	血圧測定			運動負荷前後の血圧の変化							
10	血圧測定			運動負荷前後の血圧の変化							
11	エルゴメーターによる体力測定			体力とは 体力の種類について							
12	エルゴメーターによる体力測定			最大酸素摂取量とは							
13	エルゴメーターによる体力測定			体力測定							
14	エルゴメーターによる体力測定			体力測定							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		予習は教科書に軽く目を通しておき、講義の資料および個人の学習ノートを用いて復習を行なう。									
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ %） ☐ 実技試験 （ %） ☐ 小テスト （ %） ☒ レポート （ 90 %） ☒ 課題 （ 10 %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他 （ %）									
教 科 書		特に無し									
参 考 書		入門運動生理学 基礎運動学第6版補訂 その他、図書室生理学教科書を参照									
授業の留意点・備考		1年次の生理・解剖・運動学を再度学習するつもりで、さらに理解を深めていく。									

科目名	運動学	担当教員	山本 英夫・野仲 泰良
-----	-----	------	-------------

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	4	時数	60	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修		必修
担当教員の実務経験		総合リハビリテーション病院での業務経験を活かし講義を行う。									
授 業 概 要		本授業では、人体の構造と機能及び心身の発達を理解するために、運動学の基礎となる力やてこなどの生体力学や、関節の基本構造、筋の収縮の様式や関係する神経機能について学習する。また、上肢、下肢、体幹の各関節の特徴と機能、運動について学習する。									
到 達 目 標		身体の関節の特徴的な構造と機能を説明できる。また、関節の動きや筋の作用、靱帯やその他器官の機能を理解しイメージできる。また、それを各関節のみでなく人の全身の動きの中で理解し他に説明することができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			運動学とは何か学習する。							
2	運動器の構造と機能①			骨、関節、筋の構造と機能について学習する。							
3	運動器の構造と機能②			基本の肢位と面、運動の名称について学習する。							
4	運動器の構造と機能③			筋収縮の様式、筋の張力について、運動に関係する神経系の機能について学習する。学習する。							
5	股関節の運動学①			股関節を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。							
6	股関節の運動学②			股関節を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。							
7	膝関節の運動学①			膝関節を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。							
8	膝関節の運動学②			膝関節を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。							
9	股・膝関節の筋			股・膝の運動に関係する筋の働きについて学習する。							
10	足関節および足部の運動学①			足関節および足部を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。							
11	足関節および足部の運動学②			足関節および足部を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。							
12	足関節および足部の筋			足関節および足部の運動に関係する筋の働きについて学習する。							
13	脊柱の運動学①			脊柱を構成している椎間板、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。							
14	脊柱の運動学②			頸椎の構造と、その特徴や機能を学習する。							
15	脊柱の運動学③			胸椎、腰椎の構造と、その特徴や機能を学習する。呼吸運動について学習する。							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	脊柱の運動学④	脊柱の運動に関係する脊柱起立筋や腹筋などについて学習する。
17	肩甲帯・肩関節の運動学①	肩複合体（肩甲上腕関節、肩鎖関節、胸鎖関節）を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
18	肩甲帯・肩関節の運動学②	肩複合体（肩甲上腕関節、肩鎖関節、胸鎖関節）を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
19	肩甲帯・肩関節の運動学③	肩甲帯・肩関節の運動に関係する筋の作用について学習する。
20	肩甲帯・肩関節の筋	肩甲帯、肩関節の運動に関係する筋の働きについて学習する。
21	肘関節の運動学	肘（腕尺関節、腕橈関節、上橈尺関節）を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
22	前腕の運動学①	前腕（上橈尺関節、下橈尺関節）を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
23	前腕の運動学②	肘関節、前腕の運動に関係する筋の作用について学習する。
24	肘関節・前腕の筋	肘関節・前腕の運動に関係する筋の働きについて学習する。
25	手関節、手指の運動学①	手と手指を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
26	手関節・手指の運動学②	母指の運動について学習する。手指屈筋、伸筋機構について学習する。
27	手関節・手指の運動学③	手関節、母指、手指の運動に関係する筋の作用について学習する。
28	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。
29	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。
30	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。
準備学習（予習復習）の具体的な内容		毎回小テストで確認していくため、各項の復習を欠かさず取り組み、確実に覚えていくこと。
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 60 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 40 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		協同医書出版社 人間の運動学
参 考 書		プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系（医学書院）
授業の留意点・備考		各自の身体や模型を用いて文字だけの理解ではなく、3次元でのイメージ構築できることを目標とする。

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		運動に対する身体機能の反応と変化を急性期医療から回復期医療において様々な疾患におけるリハビリテーションに携わり経験してきたことを基に講義・演習を行う。									
授 業 概 要		解剖学や生理学、運動学の知識を統合し、ヒトの動きの基礎を学ぶ。姿勢、基本動作、歩行を中心に正常（健常）の動作の基礎となる用語、機能的役割、原理を理解し、異常な現象や動作の要因となりうるところを推測できるようになるための基盤を習得する。									
到 達 目 標		姿勢、基本動作、歩行などのヒトの正常（健常）な動作を理解する。 正常のヒトの姿勢や動作についての国家試験を解釈できるようになる。 姿勢における重心位置や姿勢制御について説明することができる。 基本動作における正常パターンについて説明することができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	臨床運動学 総論			基本的動作に関する運動力学の基礎を学び理解する。							
2	姿勢①			姿勢制御のバイオメカニクスを学び理解する。							
3	姿勢② ～演習～			姿勢制御のバイオメカニクスを学び姿勢の異常や基本的動作との関連・評価について理解する。							
4	寝返り			寝返り動作における運動パターンの概要と、動作を可能にするメカニズムを学び、正常動作を理解する。							
5	起き上がり			起き上がり動作における運動パターンの概要と、動作を可能にするメカニズムを学び、正常動作を理解する。							
6	寝返り・起き上がり ～演習～			寝返り・起き上がり動作の様々なパターンを実際に観察し理解する。							
7	起立・着座			起立・着座動作における運動パターンの概要と、動作を可能にするメカニズムを学び、正常動作を理解する。							
8	起立・着座 ～演習～			起立・着座動作の様々なパターンを実際に観察し理解する。							
9	歩行① ～正常歩行の運動学と歩行周期～			正常歩行における運動パターンの概要と、動作を可能にするメカニズムを学び、正常動作を理解する。							
10	歩行② ～正常歩行の運動学的分析～			正常歩行における重心のコントロールと各関節運動との関係について理解する。							
11	歩行③ ～正常歩行の運動力学的分析～			正常歩行の動きを生じさせる要因である力について学び理解する。							
12	歩行④ ～様々な正常歩行～			小児・成人・高齢者の歩行の特徴について学び違いなどを理解する。							
13	歩行⑤ ～異常歩行～			運動器疾患、神経筋疾患などによくみられる主な異常歩行について、その特徴や名称、原因などを学び理解する。							
14	歩行⑥ ～演習～			正常歩行について観察・計測などの演習を行う。							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		講義ごとに随時復習を行い、理解度を高めること。 1年次に学習した解剖・運動学を復習すること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 20 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		随時資料配布、基礎運動学 第6版補訂：医歯薬出版株式会社 動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実際：MEDICAL VIEW 観察による歩行分析：医学書院									
参 考 書		プロメテウス解剖アトラス 解剖総論運動器系 第3版：医学書院、動作のメカニズムがよくわかる 実践！動作分析：医歯薬出版株式会社、日常生活活動の分析-身体運動学的アプローチ：医歯薬出版株式会社									
授業の留意点・備考		動作観察および分析を行い、動画を撮影できるものを準備する。使用する際は事前に準備の連絡を行う。 演習を行う際は、軽装の準備をすること。									

科目名	人間発達学	担当教員	小野 厚美
-----	-------	------	-------

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床作業療法に携わった経験を活かし、リハビリテーションにおいて理解すべき小児の運動発達について講義・指導ができる									
授 業 概 要		小児の運動発達の基盤となる発達概念、発達理論を理解し、姿勢反射、反応から始まる正常な運動発達を時期とともに段階的に学ぶ。									
到 達 目 標		正常な小児の運動発達を学習し、どのような順番で運動を獲得していくのかを説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			小児の運動発達のイメージを作る。							
2	発達概念			人間発達を表現する用語や発達の流れを学ぶ。							
3	人間発達（発達理論）			発達理論モデルを理解する。							
4	姿勢反射・反応①			姿勢反射・反応の出現と消失を時期とともに学ぶ。							
5	姿勢反射・反応②			姿勢反射・反応の出現と消失を時期とともに学ぶ。							
6	運動発達（0～3ヶ月）			0～3ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。							
7	運動発達（4～6ヶ月）			4～6ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。							
8	運動発達（7～9ヶ月）			7～9ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。							
9	運動発達（10～12ヶ月）			10～12ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。							
10	運動発達（13～18ヶ月）			13～18ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。							
11	上肢機能の発達			上肢機能と物の操作の発達を学ぶ。							
12	ADLの発達①			遊び・食事・排泄・更衣の発達を学ぶ。							
13	ADLの発達②			遊び・食事・排泄・更衣の発達を学ぶ。							
14	感覚・知覚・認知・社会性の発達			感覚・知覚・認知・社会性の大きな発達を学ぶ。							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		配布資料を参考に復習する事									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （100%） ☐ 実技試験 （ %） ☒ 小テスト （ %） ☐ レポート （ %） ☐ 課題 （ %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		イラストでわかる人間発達学 医歯薬出版株式会社									
参 考 書											
授業の留意点・備考		配布資料をファイルし整理すること									

科目名	基礎医学特論 I	担当教員	作業療法学科教員
-----	----------	------	----------

学科	作業療法学科	年次	4	開講期	後期	単位数	4	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	作業療法学科各教員が臨床経験に基づき、それぞれの分野において教授する。										
授 業 概 要	作業療法専門基礎領域の国家試験問題を解きながら知識を整理する。										
到 達 目 標	作業療法専門基礎領域の知識を習得する。 解剖学、生理学、病理学、運動学における用語を説明することが出来る。										

授 業 計 画											
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	解剖学①	解剖学の知識を習得する。
2	解剖学②	解剖学の知識を習得する。
3	解剖学③	解剖学の知識を習得する。
4	解剖学④	解剖学の知識を習得する。
5	解剖学⑤	解剖学の知識を習得する。
6	解剖学⑥	解剖学の知識を習得する。
7	解剖学⑦	解剖学の知識を習得する。
8	解剖学⑧	解剖学の知識を習得する。
9	解剖学⑨	解剖学の知識を習得する。
10	解剖学⑩	解剖学の知識を習得する。
11	解剖学⑪	解剖学の知識を習得する。
12	生理学・病理学①	生理学・病理学の知識を習得する。
13	生理学・病理学②	生理学・病理学の知識を習得する。
14	生理学・病理学③	生理学・病理学の知識を習得する。
15	生理学・病理学④	生理学・病理学の知識を習得する。

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	生理学・病理学⑤	生理学・病理学の知識を習得する。
17	生理学・病理学⑥	生理学・病理学の知識を習得する。
18	生理学・病理学⑦	生理学・病理学の知識を習得する。
19	生理学・病理学⑧	生理学・病理学の知識を習得する。
20	生理学・病理学⑨	生理学・病理学の知識を習得する。
21	生理学・病理学⑩	生理学・病理学の知識を習得する。
22	生理学・病理学⑪	生理学・病理学の知識を習得する。
23	運動学①	運動学の知識を習得する。
24	運動学②	運動学の知識を習得する。
25	運動学③	運動学の知識を習得する。
26	運動学④	運動学の知識を習得する。
27	運動学⑤	運動学の知識を習得する。
28	運動学⑥	運動学の知識を習得する。
29	運動学⑦	運動学の知識を習得する。
30	運動学⑧	運動学の知識を習得する。
準備学習（予習復習）の具体的な内容		特になし。
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ % ）
教 科 書		担当教員より都度指示します。
参 考 書		担当教員より都度指示します。
授業の留意点・備考		特になし。

科目名	基礎医学特論Ⅱ	担当教員	作業療法学科教員
-----	---------	------	----------

学科	作業療法学科	年次	4	開講期	後期	単位数	4	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	作業療法学科各教員が臨床経験に基づき、それぞれの分野において教授する。										
授 業 概 要	作業療法専門基礎領域の国家試験問題を解きながら知識を整理する。										
到 達 目 標	作業療法専門基礎領域の知識を習得する。 人間発達学、小児科学、内科学、臨床神経医学、臨床心理学、精神医学、整形外科学、リハビリテーション概論における用語を説明することが出来る。										

授 業 計 画											
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	人間発達学・小児科学①	人間発達学・小児科学の知識を習得する。
2	人間発達学・小児科学②	人間発達学・小児科学の知識を習得する。
3	人間発達学・小児科学③	人間発達学・小児科学の知識を習得する。
4	人間発達学・小児科学④	人間発達学・小児科学の知識を習得する。
5	内科学①	内科学の知識を習得する。
6	内科学②	内科学の知識を習得する。
7	内科学③	内科学の知識を習得する。
8	内科学④	内科学の知識を習得する。
9	臨床神経医学①	臨床神経医学の知識を習得する。
10	臨床神経医学②	臨床神経医学の知識を習得する。
11	臨床神経医学③	臨床神経医学の知識を習得する。
12	臨床神経医学④	臨床神経医学の知識を習得する。
13	臨床心理学①	臨床心理学の知識を習得する。
14	臨床心理学②	臨床心理学の知識を習得する。
15	臨床心理学③	臨床心理学の知識を習得する。

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	臨床心理学④	臨床心理学の知識を習得する。
17	精神医学①	精神医学の知識を習得する。
18	精神医学②	精神医学の知識を習得する。
19	精神医学③	精神医学の知識を習得する。
20	精神医学④	精神医学の知識を習得する。
21	精神医学⑤	精神医学の知識を習得する。
22	整形外科①	整形外科の知識を習得する。
23	整形外科②	整形外科の知識を習得する。
24	整形外科③	整形外科の知識を習得する。
25	整形外科④	整形外科の知識を習得する。
26	整形外科⑤	整形外科の知識を習得する。
27	リハビリテーション概論①	リハビリテーション概論の知識を習得する。
28	リハビリテーション概論②	リハビリテーション概論の知識を習得する。
29	リハビリテーション概論③	リハビリテーション概論の知識を習得する。
30	リハビリテーション概論④	リハビリテーション概論の知識を習得する。
準備学習（予習復習）の 具体的な内容		特になし。
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		担当教員より都度指示します。
参 考 書		担当教員より都度指示します。
授業の留意点・備考		特になし。

科目名	臨床心理学	担当教員	井田 博子
-----	-------	------	-------

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	臨床心理士（カウンセラー）としての経験から、来談者の力を引き出し支援する様々のとりくみを紹介し、リハビリテーション実践に活かせる視点を提供したい。
-----------	---

授 業 概 要	心理臨床の中心的な課題を、実証的な観点から深め、人間理解と臨床のセンスの基礎を身につけられるようにする。
---------	--

到達目標	心理臨床の基礎を学び、対人関係を有効に用いた支援から、リハビリテーション実践に役立つ観点を身につける。
------	---

	授 業 計 画
--	---------

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション「自我の強さと悩む力」	自我の強さは年齢によって、経験によって、育つものであることを学ぶ。
2	心理査定と心理療法	心理的支援の前に来談者の状況や問題点等をとらえることの重要性を示す。
3	個人療法と集団療法	来談者とセラピストの1対1関係だけでなく、グループを用いる治療についても学ぶ。
4	家族療法とその他の心理療法	子どもの問題では、家族間コミュニケーションの調整が有効であることを学ぶ。
5	ストレスと心理的反応	多忙やコミュニケーション不全等の様々のストレスと心身の不調について考える。
6	心の病のいろいろ	体質的問題の大きいものや、生育上の環境に関連するもの等の紹介をする。
7	文化や文明とストレス	ハイテクの生活環境と心身の自然について考える。
8	心の健康	日頃からとりくむ心の健康への留意点を紹介する。
9	心理テストの種類	心理テストから理解される個人差（個性）について考える。
10	性格と無意識の行動	本人の行動パターンには自覚できる部分と無自覚の部分があることを知る。
11	性格とストレス耐性	本人の認知や行動のパターンとストレスへの強さ弱さについて考える。
12	自己理解と他者理解	思春期・青年期の友だち関係などから自・他の理解が広がることを学ぶ。
13	事例から学ぶ（1）	日常の対人関係でも出会う、了解できにくい言動について考える。
14	事例から学ぶ（2）	他者の言動の理不尽さに巻き込まれた事例の紹介と自らの言動の理不尽さに気づいた事例の紹介。
15	まとめ	試験

準備学習（予習復習）の 具体的な内容	シラバスや配布された資料をよく読み、なじみのない言葉や言葉づかいは、辞書で調べておき、はっきりしない場合は質問すること。
-----------------------	--

成績評価	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%)
	☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()

教科書	講師の先生が資料を準備
-----	-------------

参 考 書	宇治原寛・杉原保史共編『臨床心理学入門 理解と関わりを深める』培風館
-------	------------------------------------

授業の留意点・備考	この教科の配布資料は、他の教科のものとは別に、単独のファイルにすること。
-----------	--------------------------------------

科目名	病理学						担当教員	熊本大学病院病理部			
-----	-----	--	--	--	--	--	------	-----------	--	--	--

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		病理疾患の研究に携わった経験を講義に活用する。									
授 業 概 要		適切なリハビリテーションを実践するためには、疾病についての基礎的な知識を修得している必要がある。本講義では、疾病についての基礎的な知識や病態生理を教授し、さらに病理学の魅力についても伝えたい。									
到 達 目 標		・専門科目の学習に必要最低限の病理学的知識と、生涯学習の方法を修得すること。 ・疾病の基礎的な概念を理解している ・主な疾病の病態生理について説明できる。 ・問題解決型の学習法を修得している。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	オリエンテーション 病理医とは					病理医について、病理医の主な仕事について学ぶ。					
2	先天異常					病理学の概要、病因論（外因性疾患と内因性疾患）について学ぶ。					
3	中枢神経					脳・神経系の疾患、感染症等について学ぶ。					
4	免疫反応					自然免疫と適応免疫、アレルギー、免疫不全等について学ぶ。					
5	循環器					虚血性心疾患、心筋症、心筋炎、先天性心疾患等について学ぶ。					
6	泌尿器					腎臓・下部尿路の疾患について学ぶ。					
7	呼吸器					上気道の疾患、腫瘍、下気道の疾患等について学ぶ。					
8	血液疾患					赤血球系・白血球系・血小板・リンパ節の病理について学ぶ。					
9	腫瘍総論					腫瘍の分類、形態学、組織学的特徴について学ぶ。					
10	消化管・肝・胆嚢					各疾患について学ぶ。 肝障害、代謝異常、胆嚢および胆道等について学ぶ。					
11	循環障害					循環器系の概要、構成、全身の循環障害、局所の循環障害について学ぶ。					
12	感染症					日和見感染症、誤嚥性肺炎、結核症、肝炎ウイルスについて学ぶ。					
13	運動器					骨粗鬆症の病態について、骨折修復のメカニズム等について学ぶ。					
14	退行性・進行性病変					萎縮の種類について、褥瘡の原因、壊死とアポトーシスの違い、肥大と過形成等について学ぶ。					
15	まとめ					まとめ					
準備学習（予習復習）の具体的な内容		講義ノートを復習する。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		わかりやすい病理学 改訂第7版（南江堂）									
参 考 書											
授業の留意点・備考		今までの受動的な学習態度から脱却し、より充実した学習を行うために、自主的な学習態度を身に付け、積極的に疑問に思ったことは質問すること。									

科目名	内科学	担当教員	藤本 和紀
-----	-----	------	-------

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	内科臨床と係った経験を活かした講義を行うことができる。
授 業 概 要	各症候、疾病がどのようにして発生するかという内科的病態生理を基礎として、要点はプリント図表に入れ、講義の習得が容易となるように配慮する。
到 達 目 標	①国家試験の過去問題（10年程度）を十分に理解し、トレーニングを行い、思考力を育てる。 ②教科書、講師からの資料を研習し、グループワークを行う場合には、積極的に参加し意見を発表する。

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
1	循環器（Ⅰ）	循環器の解剖、病理を理解する。浮腫の診断ができる。
2	循環器（Ⅱ）	虚血性心疾患、左心不全、右心不全を理解する。
3	循環器（Ⅲ）	高血圧、末梢循環について学ぶ。
4	呼吸器疾患（Ⅰ） 風邪症候群、その他	風邪を理解するために、症状の分析、原因を知り、診断する思考力を学ぶ。
5	呼吸器疾患（Ⅱ） 閉塞性換気障害、拘束性換気障害	呼吸器の解剖、病理を復習し、代表的な疾患について学習する。
6	糖尿病	糖尿病とは、合併症、低血糖症状を理解する。
7	消化器疾患	主な疾患について学ぶ。
8	肝疾患	ウイルス肝炎、肝硬変症、その他について学ぶ。
9	内分泌	内分泌異常について学ぶ。
10	膠原病	膠原病、自己免疫疾患などについて学ぶ。
11	メタボリックとフレイル	メタボリックシンドローム、内臓脂肪と皮下脂肪、高齢者に見られるフレイル・サルコペニアについて学ぶ。
12	感染症	感染症、院内感染対策、標準予防法について学ぶ。
13	老年症候群、廃用症候群	高齢者の特有な疾患の内部障害を理解し、リハビリの臨床に役立たせる。
14	その他の内科疾患、腎不全など	主な疾患について学ぶ。
15	まとめ、復習	期末試験の対応について学ぶ。

準備学習（予習復習）の 具体的な内容	レポート（小テスト）を各テーマ毎に提出する。復習予習することで正確な解答を提出し、問題を解く思考力を育てる。
成 績 評 価	☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 10 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書	標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版 （医学書院）
参 考 書	
授業の留意点・備考	内科学は単なる記憶の繰り返しではなく、症状を分析し、病理・解剖学などの知識を元に診断する。思考力が必要であることを理解する。

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		整形外科領域の実務に携わった経験を活かし、整形外科領域の主な疾患における症状や検査、治療法について講義を行う。									
授 業 概 要		理学・作業療法士として整形外科疾患を理解することは臨床において重要である。本授業においては、講義を中心に整形外科科学の基礎から各疾患に及ぶ幅広い知識を教授し、習得していく。									
到 達 目 標		運動器疾患を体系的に学び、その臨床症状や障害像を理解する。 代表的な整形外科疾患の病態生理、症状、経過、治療法、用語を理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション・総論			整形外科の定義や領域を総合的に講義する。							
2	上肢の疾患			上肢の疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
3	下肢の疾患①			下肢の疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
4	下肢の疾患②			下肢の疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
5	体幹の疾患			脊椎疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
6	末梢神経損傷			代表的な末梢神経障害の病態、診断、治療法について講義する。							
7	外傷①			代表的な上肢の骨折の病態、診断、治療法について講義する。							
8	外傷②			代表的な下肢の骨折の病態、診断、治療法について講義する。							
9	外傷③			代表的な下肢の骨折/脱臼の病態、診断、治療法について講義する。							
10	外傷④			スポーツ外傷・障害総論の概要について講義する。							
11	リウマチ性疾患			炎症性疾患のリウマチについて病態、診断、治療法について講義する。							
12	慢性関節疾患			退行性疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
13	慢性関節疾患			退行性疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
14	骨・軟部腫瘍/代謝性骨疾患他			骨・軟部腫瘍/代謝・内分泌性疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		授業ごとの復習を行い、内容の理解を深めること									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 20 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		病気がみえる vol.11 運動器・整形外科 第1版 メディックメディア									
参 考 書		標準整形外科学 第13版 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第4版									
授業の留意点・備考		・授業を欠席しない。 ・積極的な授業態度を望む。 ・課題レポートの提出を課する。									

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		主に急性期から回復期における中枢疾患のリハビリテーションに関わった経験を活かし講義を行うことができる。									
授 業 概 要		神経内科学的疾患（特に脳梗塞や神経変性疾患など、成人の運動機能障害を生じる疾患を中心に）の概説を行う。									
到 達 目 標		代表的な神経疾患の病態と診断、治療について総合的に理解する。具体的には、神経系の構成を理解し、機能障害が発生した場合にどのような症状が現れるか理解する。その障害に対し有効な治療（根治的／対症療法的／予防的、リハビリテーション／薬剤／その他）について、総合的に理解する。それを基礎に、神経疾患治療におけるリハビリテーションの目標・役割について理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	神経系の構造と機能			神経系の疾患を理解するために必要となる中枢神経の構造や機能、末梢神経などについて学習する							
2	脳動脈と脳血管障害			脳出血、くも膜下出血、脳梗塞などの病態と分類などについて学習する							
3	脳血管障害			脳血管障害の診断と治療、リハビリテーションの実際について学習する							
4	神経学的診断と評価／神経学的検査法			神経疾患の診断や評価に用いられる検査方法などの概要を学習する							
5	神経症候学①			意識障害や運動麻痺、錐体路徴候について学習する							
6	神経症候学②			錐体外路徴候、不随意運動について学習する							
7	神経症候学③			感覚障害について学習する							
8	神経症候学④ ～高次脳機能障害～			失語症、構音障害、嚥下障害失認、失行、記憶障害、注意障害、遂行機能障害について学習する							
9	認知症／脳腫瘍／外傷性脳損傷			認知症、脳腫瘍、外傷性脳損傷の症状や分類、治療などについて学習する							
10	変性疾患、脱髄疾患			脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、多発性硬化症などを中心に学習する							
11	末梢神経障害／神経筋接合部疾患			末梢神経損傷、ギランバレー症候群、重症筋無力症などを中心に							
12	筋疾患／小児神経疾患			筋ジストロフィーや脳性麻痺などを中心に学習する							
13	脊髄疾患			脊髄損傷を中心に、主な症状やリハビリテーションを学習する							
14	神経疾患に多い合併症			神経疾患に多い廃用、誤用症候群や合併症について学習する							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		講義の中で出てくるポイントについて、復習を各自でしっかり行い理解することが望まれる。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 20 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		病気がみえるvol.7脳・神経 第2版(メディックメディア)									
参 考 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版(医学書院)									
授業の留意点・備考		国家試験出題の多い点については講義の中でも問題活用し進めていく。問題でわからないところなどを自分自身でも調べる習慣を身につけ努力すること。									

科目名		精神医学				担当教員		瀧本 文博			
学科	作業療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		精神科病院での臨床経験を活かし、実際の臨床像を交えながら、症候・疾患・治療について講義を行う									
授 業 概 要		リハビリテーション実践の場で必要とされる精神機能や精神症状を基本として、必要な精神疾患の概念や疫学、症状、治療など基本的事項について学ぶ。									
到 達 目 標		①精神医学の概要を説明することができる ②精神障害の成因と分類について説明することができる ③精神機能の障害と精神症状について説明することができる ④精神疾患について説明することが出来る									
授 業 計 画											
回	テーマ	授 業 内 容									
1	オリエンテーション 精神医学とは	本講義のオリエンテーション、精神医学の歴史、精神障害に関わる概念、精神障害の成因、精神障害の分類について学ぶ									
2	精神機能の障害と精神症状①	精神機能の障害と精神症状、意識・知能・性格・記憶とその障害を学ぶ									
3	精神機能の障害と精神症状②	感情、意志・欲動とその障害を学ぶ									
4	精神機能の障害と精神症状③	知覚・思考とその障害、病識を学ぶ									
5	統合失調症及びその関連障害①	統合失調症の疫学・成因、病態・精神症状の特徴を学ぶ									
6	統合失調症及びその関連障害②	統合失調症の病型、経過と予後、治療とリハビリテーションについて学ぶ									
7	気分（感情）障害①	うつ状態、躁状態における症状や精神機能の障害について学ぶ									
8	気分（感情）障害②	病型による経過と予後、治療について学ぶ									
9	認知症とその特徴	定義と分類、基本症状と随伴症状、大脳皮質の変性疾患（アルツハイマー病、ピック病、レビー小体型認知症、血管性認知症）について学ぶ									
10	神経症性障害とその特徴	神経症性障害の概念、類型とその症状をふくめた特徴について学ぶ									
11	精神作用物質による精神および行動の障害	精神作用物質による障害の定義、アルコール関連精神障害、薬物依存による精神障害、治療と回復について学ぶ									
12	パーソナリティ障害 精神遅滞	成人のパーソナリティの障害、精神遅滞の概念、疫学、頻度の高い精神遅滞について学ぶ									
13	てんかん	定義と概念、疫学、てんかんの発作症状と精神疾患、てんかんにともなう精神障害、経過と予後、てんかんの治療について学ぶ									
14	生理的障害および身体的要因に関連した障害	摂食障害（神経性無食欲症・神経性大食症）、睡眠障害について学ぶ									
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める									
準備学習(予習復習)の具体的な内容		広範囲に渡る講義であるため復習をその都度行うこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書		標準理療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学（第4版）医学書院									
参 考 書		現代臨床精神医学（改訂第11版） 金原出版 精神障害の理解と精神科作業療法 第3版（中央法規）									
授業の留意点・備考											

科目名	小児科学	担当教員	岩谷 典学
-----	------	------	-------

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		小児科医としての臨床・教育・研究の経験および行政での公衆衛生医師としての経験を活かして、小児の医療、関連する保健福祉の制度等について講義を行うことができる。									
授 業 概 要		小児の特徴は常に成長・発達していることである。出生から思春期にいたるまでの各時期の身体的特徴や機能の特徴、各身体領域の主な疾患、重要な疾患について、また疾患と障害との関連性について講義を行う。									
到 達 目 標		小児科学について学習することによりリハビリテーションに対する幅広い視野をもち、小児リハビリテーションに活かすことができるよう小児科学の基礎的な知識を習得する。									

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
1	小児の成長と発達1	小児の各時期の身体発育、栄養などの特徴や特殊性とその評価法、主要な病態生理について学ぶ
2	小児の成長と発達2	小児の各時期の運動機能の発達や精神発達、循環器、呼吸器などの生理的機能の発達の特徴とその評価法、主要な病態生理について学ぶ
3	症候の病態生理、診断と治療	小児によくみられる症候の病態生理、診断、治療、事故・応急処置について学ぶ
4	小児保健	小児保健に関する統計、社会的資源、母子保健、予防接種、学校保健、児童虐待などについて学ぶ
5	新生児・未熟児と疾患	主な周産期異常、低出生体重児、新生児仮死、新生児の呼吸障害、中枢神経障害等の病態生理、その評価法、治療などについて学ぶ
6	先天異常と遺伝病	遺伝子・染色体異常、先天代謝異常症、母子感染症などの主な疾患、病態生理について学ぶ
7	神経・筋疾患、骨系統疾患1	主な神経疾患、けいれん性疾患、発達障がい、運動器疾患、骨系統疾患などについて学ぶ
8	神経・筋疾患、骨系統疾患2	主な神経疾患、けいれん性疾患、発達障がい、運動器疾患、骨系統疾患などについて学ぶ
9	循環器、腎・泌尿器系疾患	小児の循環器、腎機能の生理的な特徴、主な疾患、病態生理について学ぶ
10	内分泌・代謝疾患	小児の内分泌・代謝の生理的な特徴、主な疾患、病態生理について学ぶ
11	消化器疾患、血液疾患、腫瘍性疾患	主な消化器疾患、血液疾患、腫瘍性疾患について学ぶ
12	感染症総論・各論	小児の感染症について概説し、主な感染症、重要な感染症について学ぶ
13	免疫・アレルギー疾患、自己免疫疾患	免疫システムのメカニズムについて概説し、主なアレルギー疾患、自己免疫疾患について学ぶ
14	重症心身障害、医療的ケア児、その他	重症心身障がい児、医療的ケア児の特徴や現状、身体管理、その他の小児疾患などについて学ぶ
15	定期試験	

準備学習（予習復習）の具体的な内容	教科書および配布資料を基に学習すること
成 績 評 価	☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版（医学書院）
参 考 書	特になし。
授業の留意点・備考	担当教員により授業計画は前後する。

学科	作業療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	演習
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		医師としてリハビリテーションに携わってきた経験をもとに、リハビリテーション医学とは何か、疾患別のリハビリテーションについての講義を行う。									
授 業 概 要		リハビリテーション医学とは何か、成り立ちと今後について、さらに基礎となる学問体系を概説し、リハビリテーションで対象となる疾患に対する診断や治療の進め方を解説する。									
到 達 目 標		リハビリテーションの一連の流れ、概略、歴史について説明できる。 疾患別のリハビリテーションを説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	リハビリテーション医学とは何か			リハビリテーション概論についての理解（リハビリテーションの理念や領域、チーム医療等）							
2	リハビリテーション医学とは何か			リハビリテーション概論についての理解（リハビリテーションの理念や領域、チーム医療等）							
3	リハビリテーション医学とは何か			リハビリテーション概論についての理解（リハビリテーションの理念や領域、チーム医療等）							
4	リハビリテーション医学とは何か			リハビリテーション概論についての理解（リハビリテーションの理念や領域、チーム医療等）							
5	脳卒中のリハビリテーション			疾患についての理解、病期別のリハビリテーション、具体的なアプローチ							
6	パーキンソン症候群のリハビリテーション			パーキンソン病とは、臨床症状、障害評価、治療とリハビリテーション							
7	神経変性疾患、神経筋疾患のリハビリテーション			疾患についての理解、一般的治療と薬物療法、リハビリテーション治療の概要							
8	脊髄損傷のリハビリテーション			脊髄損傷の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
9	四肢切断のリハビリテーション			四肢切断の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
10	運動器疾患のリハビリテーション			運動器疾患の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
11	関節リウマチのリハビリテーション			疾患についての理解、一般的治療の流れ、リハビリテーション治療の要点							
12	脳性麻痺のリハビリテーション			脳性麻痺の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
13	心筋梗塞のリハビリテーション			心筋梗塞の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
14	呼吸器疾患のリハビリテーション			呼吸器疾患の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
15	生活習慣病のリハビリテーション			生活習慣病の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書や配布資料をよく読み復習すること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 50 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 50 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		標準リハビリテーション医学 第4版									
参 考 書		適宜資料を配布									
授業の留意点・備考		特記なし									

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		救急医療現場やアメリカ心臓協会主催の1・2次救命方法のインストラクターと係わった経験を活かし、リハビリテーションにおける理学・作業療法実施時の急変や患者様の症状に対応してきた経験について講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方を学び心肺蘇生・応急処置について学習する。また、心肺蘇生・応急処置の方法について実習・演習を行い学ぶ。									
到 達 目 標		①緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方を学び心肺蘇生・応急処置について説明できる。 1) 救急医療体制について説明できる。 2) 症候群（意識障害、けいれん、失神、めまい、呼吸困難、胸痛、動機、急性肺障害・急性呼吸促進症候群、嘔気・嘔吐、頭痛、咽頭痛、腰部部痛、全身性炎症反応症候群）について説明できる。 ②心肺蘇生・応急処置の方法について説明でき、的確に実施できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	概要・救急医療体制 1			救急医療体制（インホスピタル・プレホスピタル）							
2	概要・救急医療体制 2			外傷医療・災害医療							
3	心電図 1			不整脈（頻拍）、動悸							
4	心電図 2			不整脈（徐脈）、失神、めまい							
5	症候群 1			意識障害、血圧と心拍数の関係							
6	症候群 2			急性脳卒中、頭痛、嘔吐・吐気、めまい							
7	症候群 3			胸痛（急性冠症候群）、胸痛（その他）							
8	症候群 4			腰部部痛、呼吸困難、咽頭痛、全身性炎症反応症候群							
9	応急手当			止血、創傷、熱傷、感電							
10	心肺蘇生 1			成人BLS（1人法）							
11	心肺蘇生 2			成人BLS（2人法）、AED、チームダイナミクス							
12	心肺蘇生 3			小児・乳児BLS（1人法）							
13	心肺蘇生 4			小児・乳児BLS（2人法）							
14	心肺蘇生 5			窒息、補助呼吸、演習							
15	心肺蘇生 6			BLS実技演習と実技テスト							
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験（100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教 科 書		BLS プロバイダーマニュアル									
参 考 書											
授業の留意点・備考		実践の現場で活躍されている方に講師を依頼しているので、不明な点は積極的に質問して貴重な時間を有効活用すること。また、グループワークを行う場合は、ディスカッション等に積極的に参加すること。									

科目名	画像診断学	担当教員	椎木賢悟/小森隆司/岡村暢也
-----	-------	------	----------------

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		救急病院から療養病院まで勤務経験があり、専門技師として病院内のスタッフにも研修を行っており、現在実際行われている、検査方法、画像について、症状、受傷経緯もふまえて、画像評価について説明を行うことができる。									
授 業 概 要		臨床現場で行われている、X線写真 C T M R I 超音波画像の基本的な原理、画像の成り立ちを理解する。教科書の理解、パワーポイントでの各疾患の画像の見え方を理解する。解剖学的位置と画像上での位置関係を理解する。									
到 達 目 標		各モダリティの画像の区別、見方を理解し、画像評価を行えるようになり、疾患の影響による機能的、能力的予後を予測しリハビリテーション計画に反映させられることを目標とする。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	画像検査の実際			現在病院で行われている様々な検査について見識を高める、AI診断							
2	放射線検査の基本			放射線の様々な検査方法、画像について理解をしていく							
3	画像解剖学 画像の見えかた			各種検査における、画像の基本的見方、左右、上下を理解する							
4	C T 検査 原理、画像の成り立ち			C T 検査の方法、時間、画像処理により様々な画像があることを学ぶ							
5	C T 検査 基本的画像			健常者の画像の見えかたを各部位ごとに学んでいく							
6	C T 検査 特徴的疾患画像			頭部の出血の変化、肺炎、イレウス、骨折の画像について学ぶ							
7	臨床と C T 画像			C T 検査が優先される症例、画像について特徴、理由を学ぶ							
8	M R I 検査 画像の基本			M R I の原理 磁場、電磁波 禁忌事項について学ぶ							
9	M R I 検査 基本的画像			頭部を中心に正常画像の見え方 T 1、T 2 の画像の違いを理解する							
10	M R I 検査 特徴的疾患画像			脳梗塞の画像の見え方、ヘルニア、筋、腱の症例を理解する							
11	臨床とMRI画像			検査時間、M R I で診断がつく症例について理解する							
12	頭部の疾患			C T、M R I の画像を並べて見る事により症例の画像評価を行う							
13	四肢の疾患			X線画像を中心にリウマチ、骨折、手術後の変化を学ぶ							
14	脊椎 脊髄の疾患			症状による骨折、ヘルニア、腫瘍などの症例を学ぶ							
15	胸部、腹部の疾患 質問対応			肺炎 イレウスなどの症例、画像についての質問対応を受けます							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読み、事前に画像を見ていてください。また当日のスライドでわかりにくかったところ講義後や次の講義の前に質問を行ってください。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 10 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		PT・OTのための画像診断マニュアル：医学教育出版社 PT・OTのための画像のみかた 第2版：金原出版									
参 考 書											
授業の留意点・備考		シラバス、教科書にそって行いますが、臨床画像等はスライドを作成してきますので、気になる症例や、わかりにくいところはどんどん質問を行ってください。教科書にない部分は必ずノートを取るようにしてください。（講義中にノートを取る箇所は指示を行います）									

科目名	栄養・薬理	担当教員	中村 優希
-----	-------	------	-------

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	基礎医学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	薬局薬剤師としての経験を活かし、他のコメディカルが実務で活用しやすい実用的な知識について講義出来る
授 業 概 要	生理学的な基礎知識を基盤に薬の特徴・臨床上の注意点について学習する
到 達 目 標	生理学的な基礎的な事項を理解した上で薬学的な知識、薬の特徴・注意点を説明できる

授 業 計 画											
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	薬理 ・中枢神経系など	中枢系に作用する薬剤について学ぶ
2	薬理 ・消化器系・消毒液	胃腸に作用する薬剤、消毒液の違いについて学ぶ
3	薬理 ・剤型、受容体、動態学	特徴的な剤型、基本的な受容体、血中濃度などの動態学の基礎を学ぶ
4	薬理 ・抗生剤、抗アレルギー薬	抗生剤・抗菌薬の基礎、抗アレルギー薬の世代別の特徴について学ぶ
5	薬理 ・ヘルペス、AD/MD、COPD、禁煙、嫌酒薬	生活習慣が密接に関わる薬について学習する。社会問題的な薬剤について触れる
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

準備学習（予習復習）の 具体的な内容	生化学的な知識、人体の働きについて教科書で学習しておく
成 績 評 価	☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書	講師の先生が資料を用意
参 考 書	わかりやすい薬理学 第3版 編集 安原 一
授業の留意点・備考	毎回の小テストは必ず復習しておくこと

科目名	栄養・薬理	担当教員	中村 繁良
-----	-------	------	-------

學科	作業療法學科	年次	2	開講期	後期	單位數	1	時數	30	授業形態	講義
----	--------	----	---	-----	----	-----	---	----	----	------	----

区分	専門基礎分野	教育内容	基礎医学	選択・必修	必修
----	--------	------	------	-------	----

担当教員の実務経験	大学卒業後は製薬会社にて薬の研究を携っていました。38才から薬剤師としての業務を始めた。現在は、地域包括ケア構築に向けて熊本県・熊本市の会議に参加し、他職種との連携を図っている。もちろん、熊本市主催のリハビリテーション協議会にも参加している。 現状が必要か今後何を実施すべきかの講義をすることもできる。
-----------	---

授 業 概 要	患者がどのような薬を服用しているかということは、理学療法・作業療法・言語聴覚療法士にとっても大切なことから、いろいろな疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬について学ぶ。
---------	--

到達目標	各疾患の病態生理を説明できる。 代表的な治療薬の名前を説明できる。漢方薬について学び、どの病態に効くか説明できる。 健康食品の現状と問題点を理解した上で、適正な判断・使用方法について説明できる。 対象患者は高齢者が多いことから、お薬の注意事項を説明できる。
------	--

授 業 計 画

回	テーマ	授 業 内 容
---	-----	---------

1	漢方薬について	漢方概論について学び、漢方薬について適切な使い方について学習する。
---	---------	-----------------------------------

2	循環器・血液系等について	心臓、血管、血液について学び、それらに対する治療薬について学習する。
---	--------------	------------------------------------

3	代謝系・骨粗鬆症について	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患、骨粗鬆症等について学び、それに対する治療薬について学習する。
---	--------------	--

4	高齢者への投与、薬の使用で注意することについて	特に高齢者は臓器機能が弱まり、副作用の発現率が上がる可能性が高くなるために注意事項について学習する。
---	-------------------------	--

5	健康食品・サプリメントについて	保健機能食品制度、健康食品の問題点、医薬品との違い、医薬品との相互作用等について学習し、健康食品の今後の展開：健康食品のあるべき姿についても学習する。
---	-----------------	---

6		
---	--	--

7		
---	--	--

8		
---	--	--

9		
---	--	--

10		

11		

12		

13		

14		

15		
----	--	--

準備学習（予習復習）の具体的な内容	講義ノート（パワーポイント）を復習する
-------------------	---------------------

成 績 評 価	☒ 定期試験 (40 %)	☐ 実技試験 (%)	☐ 小テスト (%)	☐ レポート (%)
	☐ 課題 (%)	☐ 発表 (%)	☐ その他 ()	

教科書	講師の先生が資料を用意
-----	-------------

参 考 書	
-------	--

授業の留意点・備考	
-----------	--

科目名	栄養・薬理	担当教員	冨永 志保
-----	-------	------	-------

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	基礎医学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		管理栄養士として病院や老健で勤務した経験を活かし、リハビリテーションを実施していくうえで必要な栄養素等について講義できる。									
授 業 概 要		臨床現場でPT・OT・STによる機能訓練を行う患者の多くが高齢者であり、リハビリを施行する患者は昨今低栄養素およびその可能性がある。ADL・QOLをUPさせるためには適切な栄養管理が必要である。その知識を習得するための学習を行う。									
到 達 目 標		栄養素の基礎、三大・五大栄養素について学ぶことにより病気の発症・治療・食事の関係について理解できる。又、自分の食生活について振り返り、自己管理できるよう学ぶことが出来る。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	栄養学の基本知識			知っているようで意外と知らない栄養の基礎知識について学ぶ							
2	栄養学の最新情報①			押さえておきたい基礎知識から栄養学の「今」を学ぶ							
3	栄養学の最新情報②			押さえておきたい基礎知識から栄養学の「今」を学ぶ							
4	栄養素の働きについて			5大栄養素から機能的食品まで。働きや接種基準まで。							
5	症状別・栄養素の取り方			栄養・食の視点から身体の不調や病気への対策を学ぶ。							
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		講義資料を復習する									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ☐ 実技試験 （ %） ☐ 小テスト （ %） ☒ レポート （ 10 %） ☐ 課題 （ %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		講師の先生が資料を用意									
参 考 書		リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎(医歯薬出版) よくわかる栄養学の基本としくみ(秀和システム)									
授業の留意点・備考		わからないことを積極的に質問してほしい。 とろみ剤や流動食の試飲等予定しています。積極的に参加してください。									

科目名	リハビリテーション概論	担当教員	有働 正二郎・岩北 耕三
-----	-------------	------	--------------

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	保健医療福祉とリハビリテーションの理念						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		10年以上の臨床経験を活かし、リハビリテーションの概要について指導することが出来る。									
授 業 概 要		リハビリテーションの理念と基本原理及びその仕組みについて学習する。病気・障害・発達・心理等の基本的内容について教授する。その後、リハビリテーションの諸段階及びリハビリテーションの過程の概要を学習する。リハビリテーション概論で学習した内容を基盤として、各専門分野の理解が深まることを目的とする。									
到 達 目 標		リハビリテーションの概念理解が出来る。病気・障害・発達の概念理解が出来る。人間活動の階層構造が理解出来る。国際生活機能分類の概略が理解出来る。神経心理学・臨床心理学とその内容について説明出来る。リハビリテーションの過程と諸段階での課題について説明出来る。医学的・教育的・職業的・社会的・高齢者の諸相について説明出来る。リハビリテーションのプロセスと手段について説明出来る。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 障害者と社会			理学療法（士）及び作業療法（士）・言語聴覚（士）は法律にどのように規定されているのかを学ぶ （有働）							
2	リハビリテーションの定義と目的			リハビリテーションの言葉の由来や意味について学び、リハビリテーションの目的の変遷や社会制度の変革について学ぶ （有働）							
3	病気とは			病気の捉え方の歴史的変遷を学ぶ （有働）							
4	障害とは			障害のモデル、特に国際障害分類（ICIDH）・国際生活機能分類（ICF）について学ぶ （有働）							
5	患者と障害者 慢性疾患モデル			患者と疾病行動や役割について学び、科学的根拠に基づく医療（EBM）やクリニカルパス、二次的障害や予防医学について学ぶ （有働）							
6	機能志向的アプローチ ヘルスケア・システムと包括的ケア			機能志向的アプローチについて学び、ヘルスケアの概要について学ぶ （有働）							
7	発達とは 人間活動			発達の定義を知り、発達研究や発達理論について概要を学ぶ （有働）							
8	リハビリテーションと心理 1			心理アセスメントの概要について学ぶ 心理的機能とその障害について（意識・注意・記憶）学ぶ （有働）							
9	リハビリテーションと心理 2			心理的機能とその障害について（遂行機能・認知・言語・行為・知能・認知リハ）学ぶ （有働）							
10	リハビリテーションと心理 3			心理的適応の過程について学ぶ （有働）							
11	リハビリテーションの過程 リハビリテーションの諸段階			評価とはなにか、評価学の重要性を学ぶ 医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション （岩北）							
12	チームアプローチ			リハ専門職の役割 （岩北）							
13	機能障害			疾病と外傷、先天異常及び精神障害 （岩北）							
14	地域リハビリテーションと高齢者対策			老人福祉法・老人保健法・介護保険制度 （岩北）							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習）の 具体的な内容		教科書のすべてを授業では行えません。講義が終わった項目までは、当日、教科書を読み直し復習を充分に行うこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ 10 % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		入門 リハビリテーション概論 第7版 中村隆一 編 医歯薬出版 リハビリテーション総論 診断と治療社									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		リハビリテーションを学習する上での基本となる科目であることを充分認識しておくこと。									

科目名	保健医療福祉論	担当教員	紫藤 千子 前野 祥子
-----	---------	------	----------------

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	保健医療福祉とリハビリテーションの理念						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士として、長年にわたる福祉の現場での実践経験を踏まえて、より具体的な講義、GWなどの演習を行うことができる。									
授 業 概 要		保健医療福祉論の中の福祉に関して、高齢者、障害者、児童の福祉について、年金や生活保護などの金銭的な面、就労支援、権利擁護の考え方、制度に関して学ぶ。									
到 達 目 標		クライアントを、生活する人としてとらえ、その暮らしに関わる様々な社会福祉の基礎知識を得て、社会福祉制度に関して理解を深め、今、社会福祉がどのような現状にあり、課題を抱えているのか知り、クライアントを支援するための知識を得る。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 障害者福祉①			授業のオリエンテーション。「福祉とは」考えてみる。							
2	社会と生活のしくみ			「生活」について、家族、地域、社会の視点で学ぶ。地域共生社会について学ぶ。							
3	日本の社会保障制度①			社会保障の基本的な考え方を学ぶ。日本の社会保障制度の歴史を学ぶ。							
4	日本の社会保障制度② 現代社会と社会保障制度			日本の社会保障制度の歴史を知る。現代社会の特徴を学び、今後の社会保障の在り方について考える。							
5	社会保障制度 障がい者保健福祉①			現代社会の特徴を学び、今後の社会保障の在り方について考える。 障がい者福祉の現状について学ぶ。							
6	障がい者保健福祉②			障がい者福祉の動向。障がい者福祉に関する法体系について学ぶ。							
7	障害者総合支援制度			障害者総合支援法のしくみを学ぶ。							
8	権利擁護			権利擁護について学ぶ。虐待防止法の考え方、法制度について学ぶ。							
9	多職種連携とチーム医療			多職種連携が求められる背景・その目的を学習する。 多職種を理解し医療職の専門性について学習する。							
10	チーム・アプローチにおける課題と対応			チームビルディング（組織化）の4場面と3要素について学習する。PDCAサイクルと目標と共有化、役割分担、リスクマネジメントについて学習する。							
11	多職種連携の実践（急性期・在宅）			急性期医療・在宅医療における多食連携のポイントを学習する。							
12	自分のコミュニケーションの特徴を知る 介護予防教室の企画・実施①			自分のコミュニケーションの特徴を知り、グループワークを行う。介護予防教室の企画・実施を通して、多職種連携について学習する。							
13	介護予防教室の企画・実施②			自分のコミュニケーションの特徴を知り、グループワークを行う。介護予防教室の企画・実施を通して、多職種連携について学習する。							
14	介護予防教室の企画・実施③			自分のコミュニケーションの特徴を知り、グループワークを行う。介護予防教室の企画・実施を通して、多職種連携について学習する。							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める。							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		事前に教科書を読む									
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		2023年度版社会保障制度指差しガイド いとう総研編 日総研 リハベーシック コミュニケーション論・多職種連携論 最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解（中央法規）									
参 考 書											
授業の留意点・備考		・グループワークを行う際は、積極的に参加すること。 ・授業中の私語はしないこと。									

科目名	作業療法セミナー	担当教員	有働正二郎（※１） 葉山 靖明（※２）
-----	----------	------	------------------------

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎作業療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		身体障害領域で、あらゆる疾患や病期に応じて関わってきた経験と地域リハビリテーションの分野での経験を活かして、作業療法士がいかなる職業であるかの講義を行うことができる。（※1） 当事者としての経験と作業療法実践者としての経験を活かして講義を行うことができる（※2）									
授 業 概 要		本科目は、作業療法学科に入学した学生が作業療法・作業療法士について最初に学習する科目である。本科目では、まず作業療法士を目指す学生として相応しい態度や知識について理解し、作業療法士としての資質を身につけることが重要な目的となる。本科目で学んだ内容は、1年次にある「作業療法概論実習」において活かされることになる。									
到 達 目 標		・作業療法とは何かを説明することができる。 ・作業とは何かを説明することができる。 ・作業療法に求められる資質を理解することができる。 ・対象者に対する良好なコミュニケーションをとることができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	作業療法とは①			作業療法を受けた当事者からの話を聞くことで作業療法について学ぶ。							
2	作業療法とは②			作業療法実践者の話を聞くことで作業療法について学ぶ。							
3	作業療法・作業療法士とは（まとめ）			作業療法とは①②を受講しての感想を発表し合い、共有する。							
4	作業療法士という仕事			作業療法士の仕事について学び、作業療法士について理解を深める。							
5	作業療法の守備範囲			作業療法の対象と範囲を学習する。 教員インタビューのグループ分けとインタビュー内容を決定する。							
6	作業療法士の職業観			作業療法の先駆者のエピソードを基に、グループワークで職業観について考える。							
7	作業療法士に求められる資質と適性①			教員インタビューを通して考えられる作業療法士に求められる資質と適性についてグループ発表を行う。							
8	作業療法士に求められる資質と適性②			知識・技術についての講義を通して、資質と適性について理解を深める。							
9	作業療法士に求められる資質と適性③			態度・習慣についての講義を通して、資質と適性について理解を深める。さらに、作業療法士業務指針および日本作業療法士協会の倫理綱領について学ぶ。							
10	障害体験①			高齢者体験や片麻痺体験、視覚障害体験を通して障害者の気持ちを理解する。							
11	障害体験② 理学療法士法および作業療法士法			「障害体験を通して感じたこと」をレポートのまとめ発表する。 DVD「生活の再建に向けて」「共に生きるために」							
12	作業療法士になるために			作業療法士を目指すにあたり心掛けておくことについて学習する。							
13	援助的コミュニケーション			阿蘇宿泊研修において、接遇およびコミュニケーション法を学習する。							
14	チーム内コミュニケーション			阿蘇宿泊研修において、チームワークの重要性を学習する。							
15	阿蘇宿泊研修振り返り			阿蘇宿泊研修を振り返り、「私が目指すOT像」レポートを作成する。							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		特に予習は必要としないが、授業中にしっかりと注意深く話を聞き、内容について深く考えること。									
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ %） ☐ 実技試験 （ %） ☐ 小テスト （ %） ☒ レポート （ 50 %） ☐ 課題 （ %） ☒ 発表 （ 50 %） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		教科書なし									
参 考 書		適宜資料を配布									
授業の留意点・備考		積極的に授業に参加し、自ら「考え」「発言」する習慣を付けること。									

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	基礎作業療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		身体障害領域で、あらゆる疾患や病期に応じて関わってきた経験を活かして、作業療法士がいかなる職業であるかの講義を行う。また、精神障害領域や地域領域での職業理解のため学科の教員も関わる。									
授 業 概 要		本科目では、作業療法セミナーおよび作業療法概論実習を踏まえ、作業療法士がいかなる職業であるかを、より深く学習する。作業療法士が医療の専門職であることを明確に理解することが本科目の重要な目的である。									
到 達 目 標		・作業療法士の歴史・定義を説明することができる。 ・作業療法と関連する職種とチーム医療の重要性について理解することができる。 ・分野毎の作業療法の実践過程について理解することができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	作業療法の歴史			作業療法の誕生から現在までの歴史を学習する。							
2	作業療法の定義			作業療法の定義を学習する。							
3	作業療法の対象①			身体障害、精神障害、発達障害の作業療法について学習する。							
4	作業療法の対象②			高齢期、高次脳機能障害、地域作業療法について学習する。							
5	チームアプローチ①			作業療法と関連する職種についてグループ毎に調べる。							
6	チームアプローチ②			作業療法と関連する職種についてグループ発表を行う。							
7	ICF			ICFについて学習する。							
8	作業療法の実践課程①			O T教員が経験してきた作業療法の実践課程について学習する。(大石)							
9	作業療法の実践課程②			O T教員が経験してきた作業療法の実践課程について学習する。(有働)							
10	作業療法の実践課程③			O T教員が経験してきた作業療法の実践課程について学習する。(竹本)							
11	作業療法の実践課程④			O T教員が経験してきた作業療法の実践課程について学習する。(小野)							
12	作業療法の実践課程⑤			O T教員が経験してきた作業療法の実践課程について学習する。(前野)							
13	作業療法の実践課程⑥			O T教員が経験してきた作業療法の実践課程について学習する。(野仲)							
14	作業療法の実践課程⑦			O T教員が経験してきた作業療法の実践課程について学習する。(遠山)							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める。							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書の予習・復習を十分に行うこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 10 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☒ 発表 （ 10 % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		ゴールドマスターテキスト 作業療法学概論 第2版：メジカルビュー社									
参 考 書		適宜資料を配布									
授業の留意点・備考		積極的に授業に参加し、自ら「考え」「発言」する習慣を付けること。									

科目名	基礎作業学							担当教員	野仲 泰良		
学科	作業療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	基礎作業療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		作業療法士業務に携わった経験をいかし、基礎作業に対する知見を伝える。									
授 業 概 要		作業が心身機能や活動にどのような影響を与えるのか理解を深める。作業が持つ特性や効用を考え、それがひとにどのような影響を与えるのか理解するための基礎となる作業分析を学ぶ。作業分析を通して、理論に基づいた作業が選択できる基礎的な能力を身につける。									
到 達 目 標		作業が作業療法に用いられる理由や治療手段としての作業の特性や分類を説明できる。作業分析を行うことができ、作業分析を行うことの重要性を説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション イントロダクション			作業療法とは？作業療法における作業とは？ 作業の定義と作業療法で用いられる作業・作業学の範囲について学ぶ							
2	作業を用いた療法に関連する基本事項①			作業の種類と分類を学ぶ 作業療法における作業活動の歴史を学ぶ							
3	作業を用いた療法に関連する基本事項②			一般的な治療の目的と作業を治療に用いる条件について学ぶ							
4	作業の治療への適応			治療手段としての作業の特性を学ぶ 作業はどう使えば効果的か？作業療法のプロセスを学ぶ							
5	作業分析①			作業分析の全体像を学ぶ							
6	作業分析②			分析演習を行う①							
7	作業分析③			分析演習を行う②							
8	分野別作業分析①			身体機能分野における作業分析と適用							
9	分野別作業分析②			身体機能分野における作業分析と適用							
10	分野別作業分析③			認知機能分野における作業分析と適用							
11	分野別作業分析④			認知機能分野における作業分析と適用							
12	分野別作業分析⑤			心理社会的分野における作業分析と適用							
13	分野別作業分析⑥			心理社会的分野における作業分析と適用							
14	処理論と作業①			人間作業モデル・COPM・MTDLPについて学ぶ							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習(予習復習)の 具体的な内容		授業の前に、該当内容の範囲を予習しておくこと。確認テストを行うので復習も欠かせないこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (70 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☒ 課題 (30 %) ☐ 発表 (%) ☒ その他(提出期限(送れた場合は減点))									
教 科 書		ゴールドマスター テキスト 作業学 ひとと作業・作業活動 作業の知をとき技を育む 新版 三輪書店									
参 考 書		作業-その治療的応用 改訂第2版 協同医書出版社 その他、適宜資料配布									
授業の留意点・備考		成績評価の内容を確認すること。 各授業ごとの課題遂行や提出期限を守ること(提出期限も評価の対象とする)。									

科目名		基礎作業学演習Ⅰ						担当教員		前野 様子			
学科	作業療法学科		年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習	
区分	専門分野		教育内容		基礎作業療法学						選択・必修		必修
担当教員の実務経験			精神障害領域の病院、デイケアにて勤務し、精神科作業療法に従事した経験を活かし、各 activity の捉え方や作業分析の方法を講義・演習する										
授 業 概 要			作業が有する治療的効果について、作業活動の演習、作業分析等の技法を用いて実践的に学習する。 基礎作業学の実技演習としての位置づけである。										
到 達 目 標			①作業分析を実践し、治療的要素をとらえることができる。 ②治療目的に応じ作業活動を適用することができる。 ③治療手段としての作業活動を実践することができる。										
授 業 計 画													
回	テーマ					授 業 内 容							
1	オリエンテーション 革細工①					講義全体のオリエンテーションを行う 革細工について（素材の特徴、社会的意味、治療効果）について学ぶ							
2	革細工②					革細工で使用する道具について、作成する作品の説明、カービングにてコースター作りを行う							
3	革細工③					コースター作りを行う							
4	革細工④					革の着色について（講義・演習）、小銭入れ説明（かがりも含む）							
5	革細工⑤					小銭入れ作製							
6	革細工⑥					小銭入れ作製（着色・かがり・ホックつけも含む）							
7	塗り絵①					塗り絵の特徴、臨床での活用方法について学ぶ							
8	塗り絵②					認知症高齢者の作業活動で利用できる塗り絵の下絵製作							
9	塗り絵③ フィンガーペインティングについて					各自の下絵についての発表 フィンガーペインティングについて学ぶ							
10	フィンガーペインティングについて					グループに分かれ、フィンガーペインティング体験							
11	タイルモザイク①					タイルモザイクについて（素材の特徴・作業の特徴・道具）							
12	タイルモザイク②					ペアをつくり作品作り（デザイン）							
13	タイルモザイク③					卵の殻を使った作品作り（着色も含む）							
14	タイルモザイク④					卵の殻を使った作品作り（着色も含む）							
15	タイルモザイク⑤					作品発表							
準備学習(予習復習)の 具体的な内容													
成 績 評 価			☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 50 %） ☒ 課題（ 50 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他()										
教 科 書			作業―その治療的応用 第2版(共同医書出版社)										
参 考 書			・作業療法学 作業学 改訂第2版（メジカルビュー） ・ひとと作業・作業活動 第2版(三輪書店)										
授業の留意点・備考			・道具、材料等の物品の管理は責任を持って行うこと。 ・演習の際は、汚れてもかまわない服装で臨むこと。										

科目名	基礎作業学演習Ⅱ						担当教員	前野 祥子		
-----	----------	--	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎作業療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		精神障害・老年期障害分野の臨床経験を活かし、各activityの捉え方や実際の方法を講義・演習する									
授 業 概 要		作業が有する治療的効果について、作業活動の演習、作業分析等の技法を用いて実践的に学習する。 基礎作業学の実技演習としての位置づけである。									
到 達 目 標		①作業分析を実践し、治療的要素をとらえることができる。 ②治療目的に応じ作業活動を適用することができる。 ③治療手段としての作業活動を実践することができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 紙細工①			講義全体のオリエンテーションを行う 紙細工について（素材の特徴、社会的意味、治療効果）について学ぶ							
2	紙細工②			作品作りについて説明							
3	紙細工③			作品作り（ティッシュペーパーカバー作り）を行う							
4	紙細工④			作品作り（籠づくり）を行う							
5	紙細工⑤			作品作り（籠づくり）を行う							
6	陶芸①			陶芸について（素材の特徴、社会的意味、治療効果等）について学ぶ							
7	陶芸②			作品作り（練習）を行う							
8	陶芸③			作品づくりを行う							
9	陶芸④			作品の仕上げ、素焼きのための窯入れを行う							
10	陶芸⑤			施釉について、本焼き、素焼きについて学ぶ。施釉を行う。							
11	木工①			木工について（素材の特徴、社会的意味、治療効果、道具）について学ぶ							
12	木工②			ペアをつくり作品作り							
13	木工③			ペアをつくり作品作り							
14	木工④			ペアをつくり作品作り							
15	木工⑤			塗料について（講義）、着色							
準備学習(予習復習)の具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 50 %） ☒ 課題（ 50 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他()									
教 科 書		作業一その治療的応用 第2版(共同医書出版社)									
参 考 書		・作業療法学 作業学 改訂第2版（メジカルビュー） ・ひとと作業・作業活動 第2版（三輪書店）									
授業の留意点・備考		・道具、材料等の物品の管理は責任を持って行うこと。 ・演習の際は、汚れてもかまわない服装で臨むこと。									

科目名	作業療法管理学	担当教員	有働 正二郎 前野 祥子
-----	---------	------	-----------------

学科	作業療法学	年次	3	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	作業療法管理学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	臨床で長く管理者を経験しており、作業療法部門のみでなく施設全体の管理運営や作業療法業務の実際、職域や職業倫理、諸制度の理解及び臨床での実習生指導等の経験を活かし、講義を行うことができる。										
授 業 概 要	作業療法における管理学の位置づけ、組織マネジメント、医療安全、医療サービスなどの作業療法の管理運営のポイントを学び、作業療法業務のマネジメント、さらに作業療法の職域や職業倫理、作業療法を取り巻く諸制度、作業療法臨床実習、作業療法士のキャリア開発等について学ぶ。										
到 達 目 標	作業療法における管理学の位置づけや、作業療法の管理運営のポイントが説明できる。作業療法業務のマネジメント、さらに作業療法の職域や職業倫理、作業療法を取り巻く諸制度、作業療法臨床実習、作業療法士のキャリア開発等について説明できる。										

授 業 計 画											
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 作業療法におけるマネジメント①	シラバス説明、作業療法管理学という新しい授業科目について説明し、その後作業療法におけるマネジメントについて学ぶ
2	作業療法におけるマネジメント②	マネジメントの資源とその特性、PDCAサイクルの各要素と考え方、目標設定の重要性、作業療法におけるマネジメントについて学ぶ
3	組織の成り立ちとマネジメント①	組織の成り立ちとマネジメントについて調べ学習する
4	組織の成り立ちとマネジメント②	組織の仕組み、組織における集団と個人の関係性、病院組織における作業療法の役割、病院組織における作業療法部門の労務管理について学ぶ
5	情報のマネジメント①	情報とマネジメントについて調べ学習する
6	情報のマネジメント②	情報の種類とその違い、情報の階層性に応じて行動が変わること、医療の質を高める3つの視点、作業療法業務に関連する情報を取り扱う注意点について学ぶ
7	作業療法と医療サービス①	作業療法と医療サービスについて調べ学習する
8	作業療法と医療サービス②	サービスとは何か、またその基本特性と構成を理解する。医療におけるサービスの特徴を理解する。作業療法におけるサービスのマネジメントを理解する
9	医療安全のマネジメント	アクシデント、インシデント、医療過誤、ヒューマンエラーを理解する。医療事故を減少させるための方法を考察する。標準予防策を含めた感染対策を理解する
10	作業療法業務のマネジメント①-1	新人教育および人材育成の重要性を理解する
11	作業療法業務のマネジメント①-2	職場環境の特性とその整備について理解する 作業療法業務の経済性について理解する
12	作業療法業務のマネジメント②-1	情報とは何かを理解する
13	作業療法業務のマネジメント②-2	タイムマネジメントとは何か、ストレスマネジメントとは何かを理解する
14	作業療法業務のマネジメント③-1	作業療法実践のための業務管理と人材育成について理解する。作業療法実践における連携の重要性を理解する
15	作業療法業務のマネジメント③-2	地域で活動する作業療法士の役割を理解する。行政機関の作業療法士の役割を理解する。災害時の作業療法士の役割を理解する

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	作業療法の役割と職域	作業療法の法的根拠を理解する。作業に関連する法律および定義を理解する。職能団体の意義と役割を理解する。作業療法の領域について理解する
17	作業療法士の職業倫理	倫理的態度について理解する。作業療法士の職業倫理・研究倫理について理解する。患者・対象者の権利と尊厳、ハラスメントとその防止について理解する
18	作業療法をとりまく諸制度①	医療保険制度について学ぶ
19	作業療法をとりまく諸制度②	介護保険制度について学ぶ
20	作業療法をとりまく諸制度③	地域包括ケアシステムについて学ぶ
21	作業療法をとりまく諸制度④ (前野)	精神保健医療を取り巻く法制度の変遷について学ぶ①
22	作業療法をとりまく諸制度⑤ (前野)	精神保健医療を取り巻く法制度の変遷について学ぶ②
23	作業療法をとりまく諸制度⑥ (前野)	精神保健福祉法の概要について学ぶ①
24	作業療法をとりまく諸制度⑦ (前野)	精神保健福祉法の概要について学ぶ②
25	作業療法をとりまく諸制度⑧ (前野)	精神科病院における行動制限と人権擁護の仕組みについて学ぶ
26	作業療法をとりまく諸制度⑨ (前野)	心神喪失者等医療観察法について学ぶ
27	作業療法臨床実習の理解と管理体制①	作業療法教育課程を理解し、臨床実習の目的と到達目標および評価、臨床実習の指導体制と指導方法、学生に求められる学生の資質について学ぶ
28	作業療法士のキャリア開発②	臨床と実践知と研究、作業療法士の資格認定制度、大学院進学と国際貢献、学会・研修会、ワークライフバランスについて学ぶ
29	作業療法臨床実習に向けて	コラム①～⑫を読み、各々がどう感じたのかを発表する。
30	まとめ	
準備学習（予習復習）の具体的な内容		しっかりと復習をすること
成 績 評 価		☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()
教 科 書		「作業療法管理学入門第2版」、医歯薬、2021
参 考 書		特になし
授業の留意点・備考		レポート課題やグループワークがあるため、積極的に参画すること

科目名	作業療法評価法Ⅰ	担当教員	野仲 泰良
-----	----------	------	-------

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業療法評価学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	作業療法士業務に携わった経験をいかし、作業療法評価に関する基本的知識について講義・実技指導を行う。
-----------	---

授 業 概 要	作業療法士の臨床実践に必要な評価について学ぶ。評価項目の種類を知り、それぞれの目的と使用方法について実技を交えて学習する。
---------	---

到達目標	1. 作業療法における評価の意義や目的を理解し、説明できる。 2. 身体障害領域の基本的な評価方法を理解し、技術を習得する。
------	---

授 業 計 画

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション、作業療法評価	身体障害領域の作業療法評価の意義と目的を学ぶ。
2	作業療法評価	作業遂行評価による技能分析を学ぶ。
3	作業療法評価	個別的な目的や価値における作業ニーズの評価を学習し、演習する。
4	面接	作業療法における面接の構造、種類を学ぶ。
5	面接	面接時の態度、技法、位置関係を学習し演習する。
6	観察	作業療法における観察の構造、種類を学ぶ。
7	観察	観察評価を実施し観察の視点を学習し、演習する。
8	意識レベルの評価	意識レベルの評価を学習し、演習する。
9	バイタルサインの評価	バイタルサインの方法を学習し、演習する。
10	形態計測	四肢長および周径の意義、目的、方法を学習する。
11	形態計測	形態計測（四肢長）を学習し、演習する。
12	形態計測	形態計測（周径）を学習し、演習する。
13	関節可動域測定	関節可動域測定の意義と目的を学ぶ。
14	関節可動域測定	関節可動域測定（上肢・手指）の測定法を学習し、演習する。
15	関節可動域測定	関節可動域測定（上肢・手指）の測定法を学習し、演習する。

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	関節可動域測定	関節可動域測定（上肢・手指）の測定法を学習し、演習する。
17	関節可動域測定	関節可動域測定（体幹）の測定法を学習し、演習する。
18	関節可動域測定	関節可動域測定（体幹）の測定法を学習し、演習する。
19	関節可動域測定	関節可動域測定（下肢）の測定法を学習し、演習する。
20	関節可動域測定	関節可動域測定（下肢）の測定法を学習し、演習する。
21	徒手筋力検査	徒手筋力検査の意義と目的を学ぶ。
22	徒手筋力検査	徒手筋力検査（肩甲帯・上肢）の測定法を学習し、演習する。
23	徒手筋力検査	徒手筋力検査（肩甲帯・上肢）の測定法を学習し、演習する。
24	徒手筋力検査	徒手筋力検査（肩甲帯・上肢）の測定法を学習し、演習する。
25	徒手筋力検査	徒手筋力検査（肩甲帯・上肢）の測定法を学習し、演習する。
26	徒手筋力検査	徒手筋力検査（下肢）の測定法を学習し、演習する。
27	徒手筋力検査	徒手筋力検査（下肢）の測定法を学習し、演習する。
28	徒手筋力検査	徒手筋力検査（下肢）の測定法を学習し、演習する。
29	徒手筋力検査	徒手筋力検査（体幹・頸部）の測定法を学習し、演習する。
30	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める。
準備学習（予習復習）の 具体的な内容		事前学習プリントを各単元で配布する。 事前学習を怠ると授業に遅れをとることになるため、積極的に行うようにする。
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 40 % ） ☒ 実技試験 （ 50 % ） ☒ 小テスト （ 10 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		①標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版 ②ROM測定 PT・OTのための測定評価DVDシリーズ1 第2版 三輪書店 ③新・徒手筋力検査法 第10版：協同医学出版社 ④OT評価ポケット手帳 ヒューマンプレス
参 考 書		・講義毎に配布します。
授業の留意点・備考		・講義と演習を交えながら進行するため、実習着等の準備を怠らないこと。（結髪、爪等） ・事前学習をした上で授業に臨んでもらうため各コマの「授業内容」を確認すること。 ・各評価事に実技小テストを実施する。（日程は都度伝える）

科目名	作業療法評価法Ⅱ	担当教員	野仲 泰良
-----	----------	------	-------

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業療法評価学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	作業療法士業務に携わった経験をいかし、作業療法評価に関する基本的知識について講義・実技指導を行う。
-----------	---

授 業 概 要	前半は、身体障害領域の基本的検査の意義と目的を理解し、各々の手技を学ぶ。後半は、代表的な疾患に必要な検査を通して評価の過程、介入方法を模擬的に学習し演習する。
---------	---

到達目標	1. 作業療法における評価の意義や目的を理解し、説明できる。 2. 身体障害領域の基本的な評価方法を理解し、技術を習得する。 3. 各領域障害の客観的データを基に分析することができる。 4. 評価結果を基に作業療法目標、プログラム立案を設定することができる。
------	--

授 業 計 画

回	テーマ	授 業 内 容
---	-----	---------

1	反射検査	反射検査の意義と目的を学ぶ。
---	------	----------------

2	反射検査	反射検査の種類とその測定法を学習し、演習する。

3	反射検査	反射検査の種類とその測定法を学習し、演習する。

4	反射検査	反射検査の種類とその測定法を学習し、演習する。
---	------	-------------------------

5	感覚検査	感覚検査の意義と目的を学ぶ。
---	------	----------------

6	感覚検査	感覚検査の種類とその測定法を学習し、演習する。
---	------	-------------------------

7	感覚検査	感覚検査の種類とその測定法を学習し、演習する。
---	------	-------------------------

8	感覚検査	感覚検査の種類とその測定法を学習し、演習する。
---	------	-------------------------

9	感覚検査	感覚検査の種類とその測定法を学習し、演習する。
---	------	-------------------------

10	感覚検査	感覚検査の種類とその測定法を学習し、演習する。
----	------	-------------------------

11	感覚検査	感覚検査の種類とその測定法を学習し、演習する。
----	------	-------------------------

12	バランス検査	バランス検査の意義と目的を学ぶ。
----	--------	------------------

13	バランス検査	バランス検査の種類とその測定法を学習し、演習する。
----	--------	---------------------------

14	上肢機能検査	上肢機能検査の意義と目的を学ぶ。
----	--------	------------------

15	上肢機能検査	上肢機能検査の種類とその測定法を学習し、演習する。
----	--------	---------------------------

--	--	--	--

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	上肢機能検査	上肢機能検査の種類とその測定法を学習し、演習する。
17	上肢機能検査	上肢機能検査の種類とその測定法を学習し、演習する。
18	身体障害領域の評価（脳血管・身体機能）	脳血管障害に必要な評価項目を学習し、演習する。 （BRS、12グレード、脳神経検査、バランス検査、筋緊張検査 他）
19	身体障害領域の評価（脳血管・身体機能）	脳血管障害に必要な評価項目を学習し、演習する。 （BRS、12グレード、脳神経検査、バランス検査、筋緊張検査 他）
20	身体障害領域の評価（脳血管・身体機能）	脳血管障害に必要な評価項目を学習し、演習する。 （BRS、12グレード、脳神経検査、バランス検査、筋緊張検査 他）
21	身体障害領域の評価（脳血管・身体機能）	脳血管障害に必要な評価項目を学習し、演習する。 （BRS、12グレード、脳神経検査、バランス検査、筋緊張検査 他）
22	身体障害領域の評価（脳血管・身体機能）	脳血管障害に必要な評価項目を学習し、演習する。 （BRS、12グレード、脳神経検査、バランス検査、筋緊張検査 他）
23	身体障害領域の評価（脳血管・身体機能）	脳血管障害に必要な評価項目を学習し、演習する。 （BRS、13グレード、脳神経検査、バランス検査、筋緊張検査 他）
24	身体障害領域の評価（脳血管・身体機能）	脳血管障害に必要な評価項目を学習し、演習する。 （BRS、14グレード、脳神経検査、バランス検査、筋緊張検査 他）
25	身体障害領域の評価（脳血管・身体機能）	脳血管障害に必要な評価項目を学習し、演習する。 （BRS、15グレード、脳神経検査、バランス検査、筋緊張検査 他）
26	身体障害領域の評価	各疾患に必要な評価項目を学習し、演習する。
27	身体障害領域の評価	検査測定結果を基にICFで整理する。
28	身体障害領域の評価	問題点の焦点化・目標設定を学習し、演習する。
29	身体障害領域の評価	問題点の焦点化・目標設定を学習し、演習する。
30	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める。
準備学習（予習復習）の具体的な内容		事前学習プリントを各単元で配布する。 事前学習を怠ると授業に遅れをとることになるため、積極的に行うようにする。
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 40 % ） ☒ 実技試験 （ 40 % ） ☐ 小テスト （ 10 % ） ☐ レポート （ % ） ☒ 課題 （ 10 % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		・標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版：医学書院 ・OT評価 ポケット手帳
参 考 書		・講義毎に配布します。
授業の留意点・備考		・講義と演習を交えながら進行するため、実習着等の準備を怠らないこと。 ・事前学習をした上で授業に臨んでもらうため各コマの「授業内容」を確認すること。 ・疾患別評価においてはグループワークをもとに進めるため、積極的に参加すること。

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業療法評価学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		発達領域および身体障害領域で、あらゆる疾患や病期に応じて関わってきた経験を活かして、発達領域の評価および高次脳機能障害の評価について、講義・演習を行う。									
授 業 概 要		・発達の遅れや障害をもつ対象者の評価法について基本的な考え方を理解するとともに各種検査について目的、実施方法、解釈等について学習する。 ・脳の疾患や脳外傷などに起因する高次脳機能障害の症状と評価について学ぶ。									
到 達 目 標		・定型発達を理解する、発達障害における運動機能障害、上肢機能の障害、視覚機能障害、口腔機能障害の評価法を理解する。 ・大脳の構造と各部位の機能を説明できる、高次脳機能障害の分類について説明できる、各高次脳機能の症状と評価について説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	発達障害とは			発達過程の障害について学習する							
2	発達障害の作業療法評価とは			発達検査の目的、選択、留意点について学習する							
3	発達全般を評価する検査			新版K式発達検査2001、遠城寺式乳幼児分析的発達検査法DENVER II、その他の検査について学習する							
4	運動機能の評価①			小児の反射と発達について学習する							
5	運動機能の評価②			小児の粗大運動の発達について学習する							
6	上肢機能・視知覚・視知覚認知の評価			上肢機能の発達と評価、日本版フロスティグ視知覚発達検査WAVES、その他検査について学習する							
7	感覚統合機能の評価①			感覚統合の考え方について学習する							
8	感覚統合機能の評価②			JPAN感覚処理・行為機能検査について学習する							
9	感覚統合機能の評価③			JMAP(日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査)について学習する							
10	感覚統合機能の評価④			その他検査(日本版感覚プロファイル、日本感覚インベントリ)について学習する							
11	知能・認知機能の評価①			日本版WISC-IV知能検査、その他検査について学習する							
12	知能・認知機能の評価②			日本版KABC-II、DN-CAS認知評価システム、その他検査について学習する							
13	知能・認知機能の評価③			人物画の発達と評価(グッドイナフ人物画知能検査・その他)について学習する							
14	行動・作業遂行・身辺処理の評価①			日本版Vineland-II適応行動尺度、S-M社会生活能力検査第3版について学習する							
15	行動・作業遂行・身辺処理の評価②			こどものための機能的自立度評価法(WeeFIM)、リハビリテーションのための子どもの能力低下評価法(PEDI)その他検査について学習する							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	高次脳機能とは、脳の機能解剖	高次脳機能、脳の機能解剖について学習する。
17	注意障害の定義、症状、責任病巣、分類	注意障害の定義、症状、責任病巣、分類について学習する。
18	注意障害の評価演習（TMT、かなひろいテスト、CAT）	TMT、かなひろいテスト、CATの評価演習を実施する。
19	記憶障害の定義、分類、責任病巣、評価	記憶障害の定義、分類、責任病巣、評価を学習する。
20	失語の定義、症状、分類、責任病巣、評価	失語の定義、症状、分類、責任病巣、評価を学習する。
21	失行の定義、症状、責任病巣、評価	失行の定義、症状、責任病巣、評価を学習する。
22	失認の分類、症状、評価	失認の分類、症状、評価を学習する。
23	半側空間無視の定義、発症率、タイプ分類	半側空間無視の定義、発症率、タイプ分類を学習する。
24	半側空間無視の責任病巣、メカニズム、症状体験演習	半側空間無視の責任病巣、メカニズムを学習し症状体験演習を実施する。
25	半側空間無視の評価演習（BIT）	半側空間無視の評価演習を実施する。（BIT）
26	知能検査演習（コース立方体組み合わせテスト（レダグン色彩マトリックス検査・WAIS-III）	知能検査演習を実施する。（コース立方体組み合わせテスト（レダグン色彩マトリックス検査・WAIS-III）
27	遂行機能障害の定義、分類、症状、責任病巣	遂行機能障害の定義、分類、症状、責任病巣を学習する。
28	遂行機能障害の評価演習（FAB・ハノイの塔・BADS）	遂行機能障害の評価演習を実施する。（FAB・ハノイの塔・BADS）
29	社会的行動障害の定義、分類、症状、責任病巣	社会的行動障害の定義、分類、症状、責任病巣を学習する。
30	社会的行動障害の評価演習（CAS・ギャンブリング課題）	社会的行動障害の評価演習を実施する。（CAS・ギャンブリング課題）
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読んでおく。 講義ノートを復習しておく。
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☒ 課題 （ 20 % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ % ）
教 科 書		標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版：医学書院 ゴールドマスタ テキスト 高次機能障害作業療法学
参 考 書		イラストでわかる人間発達学：医歯薬出版 イラストでわかる発達障害の作業療法：医歯薬出版 病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版
授業の留意点・備考		授業で配布する資料・プリントは必ずファイリングしておくこと。 演習によっては動きやすい服装での受講をお願いする場合があります。

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業療法評価学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		精神科病院での臨床経験を活かし、精神障害者に対する治療的関わり、また各種評価法について講義・演習を行う事ができる。									
授 業 概 要		精神障害をとらえ実践に役立てるために、精神障害領域で使用されている評価、評価法を学習する。精神科見学実習および3年次の精神障害治療学Ⅰ・Ⅱ・精神障害治療学演習の基盤とする。									
到 達 目 標		①作業療法評価の意義と目的を述べることができる。 ②精神科作業療法評価の方法を説明することができる。 ③精神科作業療法評価における評価のまとめと問題点の抽出について説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 精神機能・精神障害			精神機能、精神障害についての知識を整理する。							
2	精神機能の評価			精神機能を理解し、精神障害の評価目的や手段について学ぶ。 精神科障害作業療法の流れを理解する。							
3	I C F			I C F の概念、下位項目を理解する。							
4	面接法①			面接の目的、方法、留意点について学ぶ。							
5	面接法②			模擬場面を設定し、体験から学び理解する。							
6	観察法①			観察の目的、方法、留意点について学ぶ。							
7	観察法②			模擬場面を設定し、体験から学び理解する。							
8	検査①			精神障害領域で 사용되는検査の種類、方法について学ぶ。							
9	検査②			模擬場面を設定し、体験から学び理解する。							
10	他部門からの情報収集			他職種の役割を知り、他部門からの情報収集とその整理について学ぶ。							
11	集団評価			集団における評価について学ぶ。							
12	作業面接			作業面接の方法について学ぶ。 模擬場面を設定し、体験から学び理解する。							
13	情報収集・記録			他職種の役割を知り、他部門からの情報収集とその整理について学ぶ。 S O A P 記録の基礎知識、記録・カルテの書き方について学ぶ。							
14	6因子モデル・評価のまとめ			精神障害者を理解する視点として6因子モデルについて学ぶ。ICFを用いた評価のまとめ、問題点の抽出について学ぶ。							
15	まとめ			精神障害作業療法における評価・治療の流れ、各評価の方法の整理をする。							
準備学習(予習復習)の具体的な内容											
成 績 評 価		☑ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他()									
教 科 書		標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学(医学書院) 精神障害作業療法入門 改訂版第2版(協同医書)									
参 考 書		精神疾患の理解と精神科作業療法学(第3版) 精神障害と作業療法(第3版)									
授業の留意点・備考		本授業は、精神評価の基盤となる。									

科目名	身体障害治療学総論	担当教員	竹本 舞
-----	-----------	------	------

学科	作業療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	身体障害作業療法						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	身体障害領域で、あらゆる疾患や病期に応じて関わってきた経験を活かして、身体障害者に対する総合的評価から社会復帰に至る介入経験について、講義・演習を行う。
-----------	--

授 業 概 要	身体機能作業療法の治療原理について、演習を通して学習する。
---------	-------------------------------

到 達 目 標	身体機能作業療法の目的、方法、リスク管理について説明できる。関節可動域訓練を実施できる。筋力訓練を実施できる。筋緊張異常に対する治療方法を説明できる。不随意運動に対して行われる治療について説明できる。失調症状の治療の原則を説明できる。知覚再教育の適応と方法について説明できる。物理療法の概要を説明できる。
---------	--

授 業 計 画	
---------	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	身体機能作業療法学の基礎	身体機能作業療法の目的、方法、対象、枠組み、実践、リスク管理について学ぶ。
2	関節可動域訓練①	関節可動域制限の機序、各関節における凹凸の法則について学ぶ。
3	小テスト① 関節可動域訓練②	肩甲胸郭関節のモビライゼーション、マッサージを学習し演習する。
4	関節可動域訓練③	肩・肘・手・手指・股・膝関節の可動域訓練を学習し、演習する。
5	筋力訓練①	筋の収縮様式、筋力訓練の原則、筋力・筋持久力の治療手技を学習する。
6	筋力訓練②	筋力訓練メニューを立案し、発表する。
7	筋緊張異常とその治療 不随意運動とその治療	筋緊張の評価、治療手技を学習し、演習する。 不随意運動の分類、評価、治療手技を学習し、演習する。
8	協調運動障害とその治療 感覚・知覚再教育	協調運動障害の評価、治療手技を学習し、演習する。 知覚再学習のプログラムの流れ、回復過程に沿った治療を学習し、演習する。
9	神経筋促通法	神経筋促通法において使用する道具（お手玉）を作成する。
10	神経筋促通法	神経筋促通法の治療手技を学習し、演習する。
11	小テスト② 物理療法の基礎	物理療法の基礎を学習する。
12	アクティビティを使った治療①	各道具の特徴についてグループで調べ学習をする。
13	アクティビティを使った治療②	症例を設定し各道具を用いた訓練をグループで考える。
14	アクティビティを使った治療③	道具使用し、グループ発表をする。
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める。

準備学習（予習復習）の具体的な内容	教科書の予習・復習を十分に行うこと。
-------------------	--------------------

成 績 評 価	☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 20 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
---------	--

教 科 書	標準作業療法学 身体機能作業療法学 医学書院
-------	------------------------

参 考 書	必要に応じて適宜指示予定
-------	--------------

授業の留意点・備考	・授業では積極的なディスカッションを求める。 ・治療学を学ぶ上では、疾患および作業療法評価学の知識が必須となる。十分に復習しておくこと。 ・必要に応じて実習着・実習靴を着用する。
-----------	---

学科	作業療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業治療学					選択・必修	必修		
担当教員の実務経験		急性期から回復期、生活期の脳血管障害患者に携わってきた経験を活かして、脳血管疾患に対するリスク管理の重要性をはじめ、総合的評価から社会復帰に関わった介入経験について、講義・演習を行う。									
授 業 概 要		・脳解剖（神経）を復習し脳血管疾患の評価および作業療法アプローチを修得する。 ・脳血管疾患に関する作業療法評価から治療の実施に至る作業療法過程を理解し、具体的な治療手段を学ぶ。									
到 達 目 標		・主たる疾患の臨床像について説明できる。脳画像の診かたを理解し予測・検証することができる ・疾患特有の評価法を実施でき、対象者の生活機能と疾患に起因する障害の態様について説明できる。 ・問題点と利点の抽出の仕方を説明できる。 ・作業療法の治療・指導・援助方法、方法、手段について説明し、実践することができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			到達目標・学習目標等、授業の目的を共通認識する。脳血管障害及び外傷性脳損傷の分類とリハビリテーションについて学習する。							
2	脳血管障害及び外傷性脳損傷の分類とリハビリテーション			脳血管障害及び外傷性脳損傷の分類とリハビリテーションについて学習する。							
3	脳画像評価①			CT, MRIの種類、脳溝の同定、画像診断を学習し演習する。							
4	脳画像評価②			CT, MRIの種類、脳溝の同定、画像診断を学習し演習する。							
5	作業療法評価			脳血管障害の対象者に必要となる作業療法評価を学習する。							
6	作業療法評価			脳血管障害の対象者の状況に応じた作業療法目標の考え方を学習する。							
7	急性期リハ			リスク管理について学習し、演習する。							
8	急性期リハ			ポジショニングについて学習し、演習する。							
9	急性期リハ			急性期リハ介入方法を学習し、ベッドを用いて演習する。							
10	急性期リハ			起居動作、座位訓練の介入方法を学習し、演習する。							
11	回復期リハ			回復期リハ介入方法を学習し演習する。							
12	回復期リハ			BRSⅠ～Ⅲに対する基本的な介入方法を学習し、演習する。							
13	回復期リハ			BRSⅣ～Ⅵに対する基本的な介入方法を学習し、演習する。							
14	回復期リハ			正常動作の復習と、片麻痺患者に対する介助方法と訓練検討を通し学習する。							
15	事例検討			事例を通して、評価および治療技法、臨床推論を学習する。							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	事例検討	事例を通して、評価および治療技法、臨床推論を学習する。
17	事例検討	事例を通して、評価および治療技法、臨床推論を学習する。
18	事例検討	事例を通して、評価および治療技法、臨床推論を学習する。
19	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める
20	臨床応用（ICFについて①）	ICFの概要を理解し、グループで演習する
21	臨床応用（ICFについて②）	ICFを用いた臨床的応用方法を学習し、演習する
22	臨床応用（SOAPについて①）	SOAPの概要を理解し、事例を用いた演習を行う
23	臨床応用（SOAPについて②）	SOAPの概要を理解し、事例を用いた演習を行う
24	臨床応用（介入方法①）	BRSⅠ-Ⅱに対する臨床的応用の介入方法を学習し、演習する
25	臨床応用（介入方法②）	BRSⅠ-Ⅱに対する臨床的応用の介入方法を学習し、演習する
26	臨床応用（介入方法③）	BRSⅢ-Ⅳに対する臨床的応用の介入方法を学習し、演習する
27	臨床応用（介入方法④）	BRSⅢ-Ⅳに対する臨床的応用の介入方法を学習し、演習する
28	臨床応用（介入方法⑤）	BRSⅤ-Ⅵに対する臨床的応用の介入方法を学習し、演習する
29	臨床応用	事例を用いて入院から退院までの臨床的応用の介入方法を学習する
30	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める
準備学習（予習復習）の具体的な内容		・各テーマ毎に事前学習を徹底して行い、授業にスムーズに臨むこと。
成 績 評 価		定期試験（70%）実技試験（%）小テスト（10%）レポート（%） 課題（10%）発表（10%）その他（%）
教 科 書		①脳卒中最前線 第4版 医歯薬出版 ②標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版 医学書院 ③PT・OTのための画像のみかた 第2版（2年次購入）、PT・OTのための画像診断マニュアル（2年次購入） ④病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版 メディックメディア（2年次購入） ⑤作業で語る事例報告 作業療法レジメの書き方・考え方 第2版
参 考 書		・講義毎に配布します。 ・考える作業療法 活動能力障害に対して 文光堂
授業の留意点・備考		・講義と演習を交えながら進行するため、実習着等の準備を怠らないこと。（結髪、爪等） ・課題が課された場合は提出期限を厳守すること。

科目名		身体障害治療学演習Ⅱ						担当教員		竹本 舞		
学科	作業療法学科		年次	3	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容		作業療法治療学						選択・必修		必修
担当教員の実務経験		成人の認知障害に対する作業療法に携わった経験がある。医療機関や福祉施設において、古典的な高次脳機能障害から脳外傷に起因する認知機能障害の解剖生理に基づき脳の部位による障害像の分析と治療を実施した。										
授 業 概 要		高次脳機能障害(注意障害、記憶障害、失語、失行、失認、半側空間無視、遂行機能障害、社会的行動障害)に対する作業療法の実践的アプローチについて演習を通して学ぶ。前期に実施される「高次脳機能障害評価法演習」と繋がりのある授業となる。										
到 達 目 標		1. 高次脳機能障害と責任病巣が列挙できる。 2. 高次脳機能障害の治療戦略が説明できる。 3. 各高次脳機能障害の作業療法計画の立案ができる。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	高次脳機能障害作業療法学の基礎				高次脳機能障害と責任病巣、評価の知識の整理をする。							
2	高次脳機能障害の治療方法と治療戦略				高次脳機能障害の治療方法と治療戦略について学習する。							
3	小テスト①				高次脳機能障害と責任病巣の小テストを実施する。							
4	注意障害の作業療法				注意障害の作業療法(全般的・戦略的アプローチ、自己教示法)について学習する。							
5	注意障害の作業療法計画立案①				グループで注意障害に対する治療プログラムを立案を演習する。(文献検索にて)							
6	注意障害の作業療法計画立案②				グループで注意障害に対する治療プログラムを立案を演習する。(レジュメ作成)							
7	注意障害の作業療法計画発表①				グループで立案した注意障害に対する治療プログラムの発表(前半班)をする。							
8	注意障害の作業療法計画発表②				グループで立案した注意障害に対する治療プログラムの発表(後半班)をする。							
9	記憶障害の作業療法				記憶障害の作業療法(内的・外的方略の獲得、環境調整)の学習をする。							
10	失語の作業療法				失語の作業療法(コミュニケーション活動に着目したアプローチ)の学習をする。							
11	失認の作業療法				失認の作業療法(知覚の再教育、代償手段の獲得)を学習する。							
12	失行の作業療法				失行の作業療法(概念・生産系へのアプローチ、エラーに対応したアプローチ)を学習する。							
13	失行の作業療法計画立案①				グループで観念失行に対する治療プログラムを立案(文献検索)を演習する。							
14	失行の作業療法計画立案②				グループで観念失行に対する治療プログラムを立案(レジュメ作成)を演習する。							
15	失行の作業療法計画発表①				グループで立案した観念失行に対する治療プログラムの発表(前半班)する。							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	失行の作業療法計画発表②	グループで立案した観念失行に対する治療プログラムの発表(後半班)する。
17	小テスト②	注意障害、記憶障害、失語、失行に対する治療の小テストを実施する。
18	半側空間無視の作業療法	半側空間無視の作業療法(ボトムアップ・トップダウンアプローチ)を学習する。
19	半側空間無視の作業療法計画立案①	グループで半側空間無視に対する治療プログラムを立案を演習する。(文献検索)
20	半側空間無視の作業療法計画立案②	グループで半側空間無視に対する治療プログラムを立案を演習する。(レジュメ作成)
21	半側空間無視の作業療法計画発表①	グループで立案した半側空間無視に対する治療プログラムの発表(前半班)する。
22	半側空間無視の作業療法計画発表②	グループで立案した半側空間無視に対する治療プログラムの発表(後半班)する。
23	半側空間無視の作業療法の実際	半側空間無視の作業療法の実際(DVD鑑賞)を学習する。
24	遂行機能障害の作業療法	遂行機能障害の作業療法(メタ認知・問題解決・目標管理トレーニング、複合的アプローチ)を学習する。
25	遂行機能障害の作業療法(調理訓練)①	遂行機能障害者に対する調理訓練を演習を通して学ぶ。
26	遂行機能障害の作業療法(調理訓練)②	遂行機能障害者に対する調理訓練を演習を通して学ぶ。
27	社会的行動障害の作業療法	社会的行動障害の作業療法(衝動的な怒りに対する行動的・認知的アプローチ)を学習する。
28	まとめ	高次脳機能障害に対する治療のまとめ
29	小テスト③	失認、半側空間無視、遂行機能障害、社会的行動障害に対する治療の小テストを実施する。
30	まとめ	高次脳機能障害の治療の知識を整理する。総括
準備学習(予習復習)の具体的な内容		高次脳機能障害の障害像について事前学習を行うこと、教科書を基に予習しておく。
成 績 評 価		☒ 定期試験 (55 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 小テスト (15 %) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☒ 発表 (30 %) ☐ その他 ()
教 科 書		標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第2版:医学書院 高次脳機能障害ポケットマニュアル 第3版:医歯薬出版株式会社
参 考 書		適宜資料を配布
授業の留意点・備考		グループ活動を行う際には協力して行う。

科目名	身体障害治療学演習Ⅲ	担当教員	遠山・田中
-----	------------	------	-------

学科	作業療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
----	--------	----	---	-----	----	-----	---	----	----	------	-------

区分	専門分野	教育内容	運動器障害作業療法	選択・必修	必修
----	------	------	-----------	-------	----

担当教員の実務経験	臨床経験を活かして、身体障害分野での運動器疾患に対する作業療法について、講義・演習を行う。
-----------	---

授 業 概 要	・この授業では、2年次に習得した整形外科学をもとに、復習を行い病態の理解に努める。 ・また、基礎をもとに、各骨関節疾患に対するリスク管理を把握した上で、作業療法評価を行えるようにする。その評価結果をもとに、対象者のニーズを聞き出し、今後の生活を考えた訓練プログラムの立案や説明が実施でき、評価実習へと結びつける。
---------	---

到達目標	・運動学や解剖学の再復習を行い、治療と結び付ける。 ・動きの特徴が整理できるようになる。 ・疾患毎の大まかな治療内容が把握できるようになる。
------	--

授 業 計 画

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と流れの把握
2	末梢神経損傷の作業療法について①	中枢神経、末梢神経に関する解剖学、生理学の復習
3	末梢神経損傷の作業療法について②	末梢神経損傷に関する概要の復習
4	末梢神経損傷の作業療法について③	末梢神経損傷の作業療法評価、治療
5	骨関節の作業療法について①	骨折に関する解剖学、生理学の復習
6	骨関節の作業療法について②	骨折に関する概要の復習
7	骨関節の作業療法について③	骨折に関する作業療法評価
8	骨関節の作業療法について④	骨折に関する作業療法治療
9	関節リウマチの作業療法について①	関節リウマチに関する解剖学、生理学の復習
10	関節リウマチの作業療法について②	関節リウマチに関する概要の復習
11	関節リウマチの作業療法について③	関節リウマチの作業療法評価、治療
12	熱傷の作業療法について①	熱傷の概要についての復習
13	熱傷の作業療法について②	熱傷の作業療法評価、治療
14	まとめ①	末梢神経損傷と骨折の振り返り
15	まとめ①	関節リウマチと熱傷の振り返り

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	オリエンテーション	演習に関する授業の概要と流れの把握。(田中)
17	大腿骨頸部骨折のケースA(急性期)①	評価項目列挙(田中)
18	大腿骨頸部骨折のケースA(急性期)②	情報収集(田中)
19	大腿骨頸部骨折のケースA(急性期)③	目標設定(リハビリテーション・長期・短期)(田中)
20	大腿骨頸部骨折のケースA(急性期)④	治療プログラム立案(田中)
21	大腿骨頸部骨折のケースA(急性期)⑤	治療プログラム立案およびリスク管理の設定(田中)
22	大腿骨頸部骨折のケースA(急性期)⑥	治療の演習①発表(田中)
23	大腿骨頸部骨折のケースA(急性期)⑦	治療の演習②振り返り(田中)
24	大腿骨頸部骨折のケースB(回復期)①	回復期における考え方(田中)
25	大腿骨頸部骨折のケースB(回復期)②	評価項目列挙(田中)
26	大腿骨頸部骨折のケースB(回復期)③	情報収集(田中)
27	大腿骨頸部骨折のケースB(回復期)④	目標設定(リハビリテーション・長期・短期)(田中)
28	大腿骨頸部骨折のケースB(回復期)⑤	治療プログラム立案およびリスク管理の設定(田中)
29	大腿骨頸部骨折のケースB(回復期)⑥	治療の演習 発表と振り返り(田中)
30	まとめ	大腿骨頸部骨折における作業療法のまとめ
準備学習(予習復習)の 具体的な内容		各疾患の予習、復習、リスク管理について確認しておく。
成 績 評 価		☒ 定期試験 (50 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (30 %) ☐ 課題 (%) ☒ 発表 (20 %) ☐ その他 ()
教 科 書		・標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版 ・病気がみえるvol.11 運動器・整形外科 第1版
参 考 書		ICFの理解と活用(初版第22刷) きょうされん *その他、身体障害治療学で使用する教科書類は必要に応じて適宜指示予定。
授業の留意点・備考		レポート、発表については期限を遵守すること。期限を守れない場合、評価対象外とする。

学科	作業療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床での経験を活かし、身体障害分野での神経変性疾患、神経筋疾患、中枢神経疾患の作業療法について、講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		・基礎医学の知識を踏まえ、神経変性疾患・神経筋疾患・中枢神経疾患の評価法および作業療法アプローチを修得する。 ・評価から治療の実施に至る作業療法過程を理解し、具体的な治療手段を学ぶ。									
到 達 目 標		神経変性疾患・神経筋疾患・中枢神経疾患の臨床像について説明できる。疾患特有の評価法を実施でき、対象者の生活機能と疾患に起因する障害について説明できる。疾患特有の作業療法の目標について説明できる。作業療法の治療・指導・援助方法、方法、手段について説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	パーキンソン病の症状			パーキンソン病の症状について学習する。							
2	パーキンソン病の評価			パーキンソン病の作業療法の身体・精神機能面、日常生活活動面の評価について演習する。							
3	パーキンソン病の介入方法			パーキンソン病初期（ヤールのstageⅠ～Ⅲ）の治療的介入・援助・指導について演習する。							
4	脊髄小脳変性症の症状、評価			脊髄小脳変性症の脊髄・小脳症状、評価（身体・精神・日常生活活動）について学習する。							
5	脊髄小脳変性症の介入方法			脊髄小脳変性症の重症度分類別（初期・中期・後期）での治療的介入・援助・指導について演習する。							
6	筋萎縮性側索硬化症の症状、評価、介入方法			筋萎縮性側索硬化症の症状・評価を学習し、病期に応じた治療的介入・援助・指導について演習する。							
7	ギランバレー症候群の症状、評価、介入方法			ギランバレー症候群の症状・評価を学習し、病期に応じた治療的介入・援助・指導について演習する。							
8	小テスト			パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、ギランバレー症候群について小テストを行う							
9	多発性硬化症の症状、評価、介入方法			多発性硬化症の症状・評価を学習し、病期に応じた治療的介入・援助・指導について演習する。							
10	重症筋無力症の症状、評価、介入方法			重症筋無力症の症状・評価を学習し、病期に応じた治療的介入・援助・指導について演習する。							
11	脊髄損傷の症状			脊髄損傷後の神経症状と合併症について学習する。							
12	脊髄損傷の評価			脊髄損傷の機能分類(ASIA、Frankel、Zancolli)、作業療法評価について学習する。							
13	脊髄損傷の介入方法			脊髄損傷の四肢機能訓練、床上動作訓練、ADL訓練、社会復帰訓練について学習する。							
14	小テスト			多発性硬化症、重症筋無力症、脊髄損傷について小テストを行う							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める。							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		様々な疾患を学習するため、単元ごとに授業内容を整理し復習しておくこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☒ 小テスト （ 20 % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		・「標準作業療法学 身体機能作業療法学」医学書院 ・「病気がみえる 脳・神経」MEDIC MEDIA ・「病気がみえる 運動器・整形外科」MEDIC MEDIA ・「脊髄損傷理学療法マニュアル」文光堂									
参 考 書		特になし									
授業の留意点・備考		・配布資料が多くなるのでファイルにして整理しておくこと。									

学科	作業療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	内部障害作業療法						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床経験を活かして、身体障害分野での内部障害作業療法について、講義・演習を行う。									
授 業 概 要		内部障害を理解し作業療法の治療介入、指導、援助を学ぶ。 呼吸器に関する基礎知識および基礎疾患を理解し、作業療法の評価、治療介入、喀痰吸引の概要から演習までを学ぶ。									
到 達 目 標		症例に応じた評価や介入方法を説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			心臓の構造と働きについて学習する。							
2	心疾患の症状			虚血性心疾患、心不全、心臓大血管疾患の病態と症状について学習する。							
3	心疾患の評価			心疾患対象者の作業療法評価(身体・精神機能面、日常生活活動)について演習する。							
4	心疾患の介入方法			心疾患対象者の作業療法の治療的介入、援助、指導について演習する。							
5	糖尿病の作業療法			糖尿病の病態及び分類、障害像について学習する。							
6	糖尿病の症状			糖尿病の医学的(経口血糖降下薬・インスリン治療)と作業療法の関連について学習する。							
7	糖尿病の評価			糖尿病対象者の作業療法評価(身体・精神機能面、日常生活活動)について演習する。							
8	悪性腫瘍切除後の作業療法①			悪性腫瘍の種類とその症状、医学的治療について学習する。							
9	悪性腫瘍切除後の作業療法②			悪性腫瘍のリハビリテーションの対象となる障害について学習する。							
10	呼吸器疾患の作業療法			呼吸器の解剖と生理について学習する。							
11	呼吸器疾患の症状			呼吸器疾患の病態および分類、症状について学習する。							
12	呼吸器疾患の評価			呼吸器疾患対象者の作業療法評価(身体・精神機能面、日常生活活動)について演習する。							
13	喀痰吸引の概要			喀痰のメカニズムと吸引の手順について学習する。							
14	喀痰吸引の演習			喀痰吸引について模擬的に演習する。							
15	まとめ			心疾患、糖尿病、呼吸器、悪性腫瘍に関するまとめ。							
準備学習(予習復習)の具体的な内容		疾患を理解する為に、解剖学や生理学の知識を復習しながら、専門分野の知識を深めて欲しい。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 小テスト (20 %) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教 科 書		標準作業療法 専門分野 身体機能作業療法 第4版 医学書院 病気がみえる 循環器 MEDIC MEDIA 病気がみえる 呼吸器 MEDIC MEDIA									
参 考 書		老年期の作業療法(第2版)増補版 三輪書店 標準理学作業療法学 基礎専門分野 解剖学、生理学									
授業の留意点・備考											

科目名	老年期治療学演習							担当教員	瀧本 文博		
学科	作業療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	作業治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	身体障害分野と老年期障害分野の作業療法に携わった経験をいかし、老年期における特徴や捉え方、老年期リハビリテーションにおける作業療法士の役割などを講義する										
授 業 概 要	老年期の社会的特徴や身体的特徴などを踏まえた上で老年期における作業療法士としての介入のポイントを理解する。										
到 達 目 標	①老年期の特徴、作業療法の介入を理解することができる ②超高齢社会におけるリハビリテーションやセラピストの役割を理解することができる										
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	オリエンテーション 超高齢社会				日本における高齢者の現状、超高齢社会の現状について学ぶ						
2	加齢に伴う変化①				加齢や老化の仕組み、老年症候群について学ぶ						
3	加齢に伴う変化②				生理・運動・精神機能の変化について学ぶ						
4	高齢者に特徴的な疾患①循環器疾患				基礎医学の知識を元にグループごとに高齢者がかかりやすい疾患をまとめ発表し、理解を深める						
5	高齢者に特徴的な疾患②呼吸器疾患				基礎医学の知識を元にグループごとに高齢者がかかりやすい疾患をまとめ発表し、理解を深める						
6	高齢者に特徴的な疾患③骨・運動器疾患				基礎医学の知識を元にグループごとに高齢者がかかりやすい疾患をまとめ発表し、理解を深める						
7	高齢者に特徴的な疾患④神経・精神疾患				基礎医学の知識を元にグループごとに高齢者がかかりやすい疾患をまとめ発表し、理解を深める						
8	認知症①				認知症の基礎知識を学ぶ						
9	認知症②				認知症の作業療法の実践について学ぶ						
10	高齢者の介護・福祉・保健②				介護保険をはじめ高齢者の社会資源について学ぶ						
11	高齢者の介護・福祉・保健②				予防医療におけるセラピストの役割について学ぶ						
12	介護予防教室				グループごとに高齢者に対する予防教室の企画・実施						
13	介護予防教室				グループごとに高齢者に対する予防教室の企画・実施						
14	介護予防教室				グループごとに高齢者に対する予防教室の企画・実施						
15	まとめ				講義全体のまとめ						
準備学習(予習復習)の具体的な内容		高齢者の機能変化で、基礎医学(解剖・運動・生理学)の知識が必要ですので、しっかり復習しておくこと。									
成 績 評 価		☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☒ 課題 (70 %) ☒ 発表 (30 %) ☐ その他()									
教 科 書		老年期の作業療法 改訂第3版 (三輪書店)									
参 考 書		作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 老年期作業療法学 (メジカルビュー) 標準理学療法学・作業療法学 老年学 第5版 (医学書院)									
授業の留意点・備考		グループ課題を予定しています。									

科目名		精神障害治療学Ⅰ						担当教員		瀧本 文博		
学科	作業療法学科		年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野		教育内容		精神障害作業療法治療学の関与技法					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			精神科病院での臨床経験を活かし、各精神疾患の病像や特徴、作業療法の実践について臨床経験を交えながら講義、演習することができる。									
授 業 概 要			精神医学で学んだ精神機能障害や精神症状を基本として、精神科作業療法を実施する際に必要な知識と技術について学習する。また、精神科作業療法の視点、治療構造、実践プロセスについて学習する。									
到 達 目 標			精神障害の特性を説明することができる。回復段階に応じた作業療法の実践を説明できる。精神科作業療法の治療・援助構造について説明できる。精神科作業療法の実施形態と実践プロセスを説明することができる。作業療法以外の技法について説明することができる。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション 精神医療の歴史と作業療法				欧米や日本における精神医療の流れと作業療法の変遷を学習する。							
2	精神障害と精神機能障害				精神障害について理解するとともに、精神機能の障害、精神障害の特性について学習する。							
3	精神科作業療法と回復段階に応じた作業療法の介入				精神科作業療法の概要、回復段階に応じた作業療法の目的と役割を学習する。							
4	病期による作業療法の実践①				急性期、回復期前期の作業療法の実践を学習する。							
5	病期による作業療法の実践② 地域生活支援と作業療法				回復期後期、維持期の作業療法の実践および地域生活支援のプロセスや環境整備、再発予防と作業療法を学習する。							
6	作業療法の治療・支援構造①				作業療法の構造と要素について学習する。							
7	作業療法の治療・支援構造②				作業それぞれの要素の用い方について学習する。							
8	治療支援関係 自己の治療的利用				対象者との関係、治療者が対象者に及ぼす影響で学習する。自己の性格特性を知り、治療に対する影響の可能性を考える。							
9	集団と場				作業療法における集団利用の意味について学習する。 療法集団の治療因子について学習する。							
10	集団の構造因子と集団の利用				集団の構造因子の特性、作業療法における人の集まりの利用について学習する。							
11	作業療法における場の力 作業療法と時間				場所の持つ効果と意味、効率と効果に関係する時間について学習する。							
12	作業療法の形態				個人および集団作業療法とその目的について学習する。							
13	作業療法の手順				基本の流れと評価、個人プログラムの作成について学習する。							
14	作業療法と関連療法				精神療法と行動療法の種類と内容について学習する。							
15	まとめ				学習内容の理解と再確認。							
準備学習(予習復習)の具体的な内容			教授する内容が多いため、配布資料とテキストを用いて復讐を確実に行うこと。									
成 績 評 価			☒ 定期試験 (90 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (10 %) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他()									
教 科 書			精神障害と作業療法 新版 三輪書店 精神障害の理解と精神科作業療法 第3版 (中央法規)									
参 考 書			精神障害の理解と精神科作業療法 第3版 (中央法規)									
授業の留意点・備考			教授する内容が多く進行も早いので、不明な点はその都度確認すること。									

科目名		精神障害治療学Ⅱ						担当教員		前野 祥子			
学科	作業療法学科		年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習	
区分	専門分野		教育内容		作業治療学						選択・必修		必修
担当教員の実務経験			精神科作業療法に携わった経験を活かし、集団活動を中心とした精神科作業療法に必要な技術、また各種治療法について講義・演習する										
授 業 概 要			作業療法評価法Ⅳ・精神障害治療学Ⅰで習得した精神科作業療法の基礎技術を基盤に、統合失調症その他の精神疾患に対する作業療法について実践的に学ぶ。										
到 達 目 標			疾患ごとの精神科作業療法プログラムを回復段階をふまえて説明することができる。										
授 業 計 画													
回	テーマ				授 業 内 容								
1	オリエンテーション				授業内容と流れについて理解する。								
2	精神科作業療法の実践プロセス				精神科作業療法の実践プロセス(評価、問題点抽出、焦点化、ゴール設定)について復習する。								
3	疾患別作業療法(統合失調症)				統合失調症の障害像について学ぶ。								
4	疾患別作業療法(統合失調症)				統合失調症の障害像について学ぶ。								
5	疾患別作業療法(統合失調症)				統合失調症の回復過程と作業療法の役割について学ぶ。								
6	疾患別作業療法(統合失調症)				統合失調症の回復過程と作業療法の役割について学ぶ。								
7	疾患別作業療法(気分障害)				気分障害の障害像について学ぶ。								
8	疾患別作業療法(気分障害)				気分障害の障害像について学ぶ。								
9	疾患別作業療法(気分障害)				気分障害の回復段階と作業療法の役割について学ぶ。								
10	疾患別作業療法(気分障害)				気分障害の回復段階と作業療法の役割について学ぶ。								
11	ケーススタディー				仮想ケースを用いて、評価、記録の方法を学ぶ。								
12	ケーススタディー				仮想ケースを用いて、問題点抽出の方法を学ぶ。								
13	ケーススタディー				仮想ケースを用いて、焦点化、ゴール設定の方法を学ぶ。								
14	ケーススタディー				仮想ケースを用いて、プログラム立案、考察の書き方について学ぶ。								
15	まとめ				これまでの授業内容を復習し、理解を深める。								
準備学習(予習復習)の具体的な内容													
成 績 評 価			☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他()										
教 科 書			精神障害と作業療法 新版(三輪書店) 精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版(中央法規)										
参 考 書													
授業の留意点・備考			ケースレポートは提出期限を遵守すること。										

科目名	精神障害治療学演習						担当教員	前野 様子		
-----	-----------	--	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	作業療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		精神科領域の作業療法に携わった経験を生かし、精神科領域の作業療法実践で求められる評価、治療について講義・演習を行う事ができる。									
授業概要		作業療法評価法Ⅳ(精神分野)、精神障害治療学で習得した精神科作業療法の基礎技術が実践できることを目標に演習を行っていく。									
到達目標		①疾患ごとの精神科作業療法プログラムを立案することができる。 ②集団作業療法プログラムを企画・実践することができる。 ③精神科で行われる各種技能について、理解し、実践することができる。									
授業計画											
回	テーマ			授業内容							
1	疾患・障害に応じた作業療法（摂食障害）			摂食障害の障害像と評価のポイントを理解する							
2	疾患・障害に応じた作業療法（摂食障害）			摂食障害に対する作業療法について説明することができる							
3	疾患・障害に応じた作業療法（人格障害）			境界性人格障害の障害像と評価のポイントを理解する							
4	疾患・障害に応じた作業療法（人格障害）			境界性人格障害に対する作業療法について理解する							
5	疾患・障害に応じた作業療法（依存症）			依存症の心理を理解する							
6	疾患・障害に応じた作業療法（依存症）			依存症の回復過程を理解する							
7	疾患・障害に応じた作業療法（依存症）			依存症の回復と作業療法の役割を理解する							
8	心理教育①			心理教育とは、流れ、進め方について学ぶ							
9	心理教育②			心理教育の実践を行う							
10	心理教育③			心理教育の実践を行う							
11	認知行動療法（SST）①			認知行動療法とは、SSTの概要、流れ、進め方について学ぶ							
12	認知行動療法（SST）②			SSTのプログラムを体験する							
13	認知行動療法（うつ病のCBT）①			うつ病における認知行動療法の流れや認知行動療法を理解する上で必要な考えを学ぶ							
14	認知行動療法（うつ病のCBT）②			うつ病のCBTを体験する							
15	認知リハビリテーションまとめ			認知矯正療法とは、NEAR・SCIT・MCTについて学ぶ これまでの授業内容をまとめ、復習する							
準備学習(予習復習)の具体的な内容											
成績評価		☒ 定期試験（90%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☒ 発表（10%） ☐ その他()									
教科書		精神障害と作業療法 第2版 三輪書店、精神障害の理解と精神科作業療法 中央法規									
参考書		作業療法全書 作業治療学2 精神障害 協同医書、精神障害と作業療法 第2版 三輪書店、精神障害の理解と精神科作業療法 中央法規									
授業の留意点・備考											

科目名	発達障害治療学演習	担当教員	松井 匠
-----	-----------	------	------

学科	作業療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		現在病院に勤務し、小児リハビリテーションに従事している。これまでに、児童発達支援事業、放課後等デイサービス、特別支援学校等のコンサルテーションについて経験がある。重症心身障害児・者、発達障害児の治療、療育、指導、施設支援等の経験を活かし、発達障害における治療について講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		作業療法評価法で学習したことをより具体的に活用しながら発達障害領域の各疾患について、臨床像、評価、治療、援助方法について学習する。また、発達領域に関わる作業療法士に求められる役割と資質について学習する。									
到 達 目 標		発達障害の作業療法の実践課程について理解し説明することができる。新生児疾患、脳性麻痺、重症心身障害、知的発達障害、神経発達障害群、進行性筋ジストロフィー、二分脊椎症、分娩麻痺について臨床像、評価、治療、援助方法について理解し、説明することができる。発達領域に関わる作業療法士の役割と資質について理解し、説明することができる。									

授業計画		
回	テーマ	授業内容
1	発達障害作業療法の理念と目的、歴史	発達障害の作業療法における理念や目的、歴史について学ぶ
2	発達障害の定義と関連する法規、制度	発達障害の定義や、関連する法規、制度について学ぶ
3	発達障害作業療法の実践課程	発達障害の現場における基本的な実践課程について学ぶ
4	発達障害作業療法の地域支援	発達障害の作業療法における地域支援について学ぶ
5	実践における基礎知識の整理	発達障害の作業療法実践に必要な基礎知識について復習、整理をする
6	評価・検査について	発達障害の評価・検査について学ぶ
7	新生児（NICU対象児）	NICU対象児の臨床像、評価、実践について学ぶ
8	重症心身障害児（者）	重症心身障害児（者）の障害、臨床像について学ぶ
9	脳性麻痺①	脳性麻痺の障害、臨床像について学ぶ
10	脳性麻痺②	脳性麻痺の評価、実践について学ぶ
11	感覚・運動へのアプローチについて	感覚・運動アプローチについて学ぶ
12	知的能力障害	知的能力障害の障害、臨床像について学ぶ
13	神経発達症群①	自閉スペクトラム症（ASD）の障害、臨床像、評価、実践について学ぶ
14	神経発達症群②	注意欠如・多動症（AD/HD）の障害、臨床像、評価、実践について学ぶ
15	神経発達症群③	限局性学習症（LD）の障害、臨床像、評価、実践について学ぶ

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	神経発達症群④	発達性協調運動症（DCD）の障害、臨床像、評価、実践について学ぶ
17	強度行動障害①	強度行動障害の障害、臨床像について学ぶ
18	強度行動障害②	強度行動障害の評価、実践について学ぶ
19	高次脳機能障害①	高次脳機能障害の障害、臨床像について学ぶ
20	高次脳機能障害②	高次脳機能障害の評価、実践について学ぶ
21	筋ジストロフィー	筋ジストロフィーの障害、臨床像、評価、実践について学ぶ
22	骨関節疾患	骨関節疾患の障害、臨床像、評価、実践について学ぶ
23	二分脊椎症	二分脊椎症の障害、臨床像、評価、実践について学ぶ
24	内部障害（心疾患・腎疾患）	内部障害（心疾患・腎疾患）の障害、臨床像、評価、実践について学ぶ
25	小児がん	小児がんの障害、臨床像、評価、実践について学ぶ
26	生活の自立への支援	食事、排泄、更衣の支援方法について学ぶ
27	遊びへの支援	遊びの支援方法について学ぶ
28	学校生活への支援	学業および学校生活への支援方法について学ぶ
29	まとめ	授業のまとめ
30	まとめ	授業のまとめ
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読んでおくこと
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 80 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☒ 課題 （ 10 % ） ☒ 発表 （ 10 % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学 第3版：医学書院
参 考 書		発達障害の作業療法 基礎編 第3版：三輪書店 発達障害の作業療法 実践編 第3版：三輪書店
授業の留意点・備考		授業で配布する資料・プリントは必ずファイリングしておくこと。グループディスカッションでは積極的に発言をすること。 演習によっては動きやすい服装での受講、自助具・玩具等の作成に必要な道具の持参をお願いする場合があります。

科目名	日常生活活動学	担当教員	竹本 舞
-----	---------	------	------

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業療法治療学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	身体障害領域で、あらゆる疾患や病期に応じて関わってきた経験を活かして、日常生活活動(手段的日常生活活動を含む)に対する基本的な作業療法について、講義・演習を行う。										
授 業 概 要	日常生活活動の評価方法および日常生活活動に支障を来した症例の評価および指導・援助方法について演習を通して学ぶ。										
到 達 目 標	・ADL評価の目的、視点、方法を説明できる。 ・ADL評価、指導・援助方法を説明できる。 ・自助具、福祉用具を列挙でき、特徴を説明できる。										

授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	ADLの概念、領域、種類					ADLの概念、領域、種類、細目動作について学習する。					
2	正常の起居動作					正常の起居動作について学習する。					
3	起き上がりの動作分析					片麻痺患者の起き上がり動作を観察し、動作分析を行う。					
4	食事動作					食事動作の特徴について理解し、食事の評価、食事動作に影響を与える要因を学習し、自助具の利用演習を行う。					
5	整容動作					整容の特徴について理解し、整容(手洗い、洗顔、歯磨き、整髪、髭剃り、化粧、爪切り)の評価を学習し、自助具の利用演習を行う。					
6	排泄動作					排泄の特徴について理解し、排泄の評価を学習し、自助具の利用演習及び福祉用具の利用演習を行う。					
7	更衣動作					更衣の特徴について理解し、片麻痺者の更衣方法を学習し、自助具の利用演習を行う。					
8	入浴動作					入浴の特徴について理解し、入浴の評価を学習し、自助具・福祉用具の利用演習を行う。					
9	IADL					IADLの特徴について理解し、IADLの種類を学習し、自助具の利用演習を行う。					
10	小テスト					小テスト(ADLの概念、ADLの評価・自助具)					
11	車椅子演習①					車椅子のパーツの名称・操作方法について学習し、車椅子の演習(坂道上り下り、砂利道)及び片麻痺者の自動車への乗降演習を行う。					
12	車椅子演習②					さまざまな車椅子の名称・種類を学習し、車椅子演習(エレベーターへの進入、段差上り、坂道下り)を行う。					
13	ADL評価の目的、ADLの位置づけ、ADLの種類、ADL評価法					ADL評価の目的、ADLの位置づけ、ADLの種類、ADL評価法について学習する。					
14	ADL評価演習 (Barthel index)					ADL評価演習 (仮想ケースを用い、のBarthel index採点を行う)					
15	ADL評価演習 (FIM)					ADL評価演習 (仮想ケースを用い、F I M採点を行う)					

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	ADLと福祉用具 ソックスエイドの作成	ADLと福祉用具及びADL・IADL場面別の自助具について学習し、ソックスエイド作製の演習を行う。
17	食事動作の評価	食事動作の評価演習を行う。 (片麻痺患者の食事場面の動画を見て評価を行う)課題①
18	食事動作の評価と指導・援助方法	食事動作の評価と指導・援助方法(食べこぼしの原因と援助方法)について学習し、箸操作訓練の段階付けについて演習する。
19	整容動作の評価と指導・援助方法①	整容動作の評価と指導・援助方法について学習する。
20	整容動作の評価と指導・援助方法②	整容に関する自助具をグループで作製し発表する。
21	排泄動作の評価	排泄動作の評価演習を行う。 (片麻痺患者の排泄場面の動画を見て評価を行う)課題②
22	排泄動作の評価と指導・援助方法	片麻痺者の排泄動作の問題点とその原因を学習し、片麻痺者への指導と援助方法についての演習を行う。
23	更衣動作の評価	更衣動作の評価演習を行う。 (片麻痺患者の更衣場面の動画を見て評価を行う)課題③
24	更衣動作の評価と指導・援助方法	片麻痺患者の更衣動作の指導・援助方法の演習を行う。
25	入浴動作の評価	入浴動作の評価演習を行う。 (片麻痺患者の入浴場面の動画を見て評価を行う)課題④
26	入浴動作の評価と指導・援助方法、リフト体験	入浴動作の評価と指導・援助方法を学習し、リフトの演習を行う。
27	障害別のADL指導・援助方法	障害別のADL指導・援助方法、自助具と適応疾患について学習し、片麻痺患者に対する三角巾の装着の演習を行う。
28	IADLの指導・援助方法(カレー作り)①	片麻痺患者の調理動作演習(カレーを作る)
29	IADLの指導・援助方法(カレー作り)②	片麻痺患者の調理動作演習(カレーを作る)
30	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める。
準備学習(予習復習)の具体的な内容		教科書の予習・復習を十分に行い、テキストを見なくても評価ができるようになるよう、評価基準を熟知すること。
成 績 評 価		☒ 定期試験 (70 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 小テスト (5 %) ☐ レポート (%) ☒ 課題 (20 %) ☒ 発表 (5 %) ☐ その他 ()
教 科 書		作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 日常生活活動学(ADL):メジカルビュー社
参 考 書		適宜資料を配布
授業の留意点・備考		・演習は実習着を着用する。 ・課題提出の期限を厳守する。

科目名	義肢装具学演習	担当教員	藏原 和也
-----	---------	------	-------

学科	作業療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業療法治療学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	義肢装具士として採型・製作・適合に多くの臨床経験を活かして、役割や総合支援法の制度等について講義・演習を行う事が出来る。										
授 業 概 要	義肢装具の定義・歴史・目的・構造・素材等の基本的な知識とリハビリテーションにおける。位置付け、及び装具の適合判定について演習を取り入れて学習する。										
到 達 目 標	作業療法士として疾患・症状・状態等を理解して、適応する装具を選択できるようにする。装着後のチェックアウトが出来るようになる。										

授 業 計 画											
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	義肢総論：切断と義肢の基礎知識	基本的構成要素・名称・種類・適合・アライメントを理解する。
2	義手総論：分類と特徴	分類・構造と各種構成部品の特徴を理解する。
3	義手各論：手部義手・前腕義手	各種義手の特徴・構成部品・チェックアウトを理解する。
4	義手各論：上腕義手・肩義手	各種義手の特徴・構成部品・チェックアウトを理解する。
5	義手各論：筋電義手	種類と機能について理解する。
6	義足総論：分類と特徴	分類・構造と各種構成部品の特徴を理解する。
7	装具総論：装具の基礎知識	基本的構成要素・名称・種類・適応・役割を理解する。
8	装具総論：下肢装具	基本構造・種類・機能・目的・適応疾患について理解する。
9	装具各論：頸部及び体幹装具	基本構造・種類・機能・目的・適応疾患について理解する。
10	装具各論：上肢装具	スプリントの種類・機能・目的・適応疾患・チェックアウトについて理解する。
11	装具各論：上肢装具	スプリントの種類・機能・目的・適応疾患・チェックアウトについて理解する。
12	演習：上肢装具の製作見学	手背屈装具の採型から製作の一連の流れを理解する。
13	演習：上肢装具の製作見学	手背屈装具の製作。チェックアウトまで。
14	装具各論：特殊装具	食事動作補助具器・関節リウマチに対するスプリントについて理解する。
15	まとめ	

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	義肢装具の基礎知識	歩行のバイオメカニクスと義肢装具のバイオメカニクスを理解する。
17	演習：切断の総論	切断のリハビリテーションについて、断端後の症状や対応、断端管理について理解する。
18	切断の総論	切断のリハビリテーションについて、義肢への展開と注意点について理解する。
19	肩義手・上腕義手	義手の適合・アライメントチェックを理解する。
20	演習：肩義手・上腕義手	肩義手・上腕義手のチェックアウトの演習を行い、理解を深める。
21	前腕義手	義手の適合・アライメントチェックを理解する。
22	演習：前腕義手	前腕義手のチェックアウトの演習を行い、理解を深める。
23	手部義手・指義手	手部義手・指義手について理解を深める。
24	演習：手部義手・指義手	手部義手・指義手の採型見学と陽性モデル製作
25	装具各論：頸髄損傷	頸髄損傷患者の装具を用いたリハビリテーションの展開を理解する。
26	演習：頸髄損傷	頸髄損傷患者の装具を用いたリハビリテーションの展開を理解する。
27	装具各論：脳血管障害	脳血管障害患者の装具を用いたリハビリテーションの展開を理解する。
28	演習：脳血管障害	脳血管障害患者の装具を用いたリハビリテーションの展開を理解する。
29	装具各論：関節リウマチ	関節リウマチ患者の装具を用いたリハビリテーションの展開を理解する。
30	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める
準備学習（予習復習）の具体的な内容		履修内容に関連した範囲は必ず学習する事。（教科書の予習・復習する。）
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		・作業療法技術Ⅰ 義肢装具学 改訂第3版 （協同医書出版）
参 考 書		教科書以外の内容は適宜資料を配布
授業の留意点・備考		配布資料は必ず確認・理解して、分からない部分は積極的に質問して解決するように努力すること。

学科	作業療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎作業療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		身体障害領域での経験を活かして、身体障害領域の症例における臨床思考過程について、講義・演習を行う。									
授 業 概 要		臨床実習において求められるケースノートとケースレポートの視点および作成方法について学ぶ。									
到 達 目 標		・ ケースノートを作成することができる。・ ICFの分類に従い、対応すべき生活機能と障害を抽出し治療目標の設定およびOTアプローチの立案ができる。 ・ 自分で立案した治療目標やOTアプローチの根拠について考察でき、それを文章化できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	ケースノートの作成方法			ケースノート(自由書式, SOAP形式)の作成方法を学習する。							
2	ケースノートの作成			仮想ケースのケースノートを作成する。							
3	ケースレポートの構成			ケースレポートの構成、情報収集を学習する。							
4	仮想ケースの「はじめに」「症例紹介」作成			仮想ケースの「はじめに」「症例紹介」を作成する。							
5	仮想ケースの「作業療法評価」作成、アセスメントの書き方			仮想ケースの「作業療法評価」、アセスメントを作成する。							
6	仮想ケースの「はじめに」、「症例紹介」、「作業療法評価」添削			仮想ケースの「はじめに」、「症例紹介」、「作業療法評価」添削							
7	活動・参加・環境因子の書き方、ICF分類、問題点の焦点化			活動・参加・環境因子の書き方、ICF分類、問題点の焦点化について学習する。							
8	仮想ケースの「対応すべき生活機能と障害」作成			仮想ケースの「対応すべき生活機能と障害」を作成する。							
9	目標設定の考え方、治療プログラム立案時の考慮点			目標設定の考え方、治療プログラム立案時の考慮点について学習する。							
10	仮想ケースの「作業療法計画の立案」作成			仮想ケースの「作業療法計画の立案」を作成する。							
11	考察の書き方			考察の書き方を学習する。							
12	仮想ケースの「考察」作成			仮想ケースの「考察」を作成する。							
13	仮想ケースの「考察」添削			仮想ケースの「考察」の添削後、修正を行う。							
14	報告会用レジュメ作成法			報告会用レジュメの作成方法を学習する。							
15	治療プログラム意見交換会			各自立案した治療プログラムの意見交換会を行う。							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		評価のアセスメントにおいて必要な解剖・生理の知識の復習を行っておく。									
成 績 評 価		☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (100 %) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 (%)									
教 科 書		教科書なし(適宜資料を配布)									
参 考 書		・ ICFの理解と活用：萌文社 ・ 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版：医学書院 ・ 脳卒中最前線 第4版：医歯薬出版株式会社									
授業の留意点・備考		仮想ケースを使い段階的に進めて行くので、その都度の提出期限を厳守する。									

科目名	作業療法専門分野特論Ⅰ	担当教員	作業療法学科専任教員
-----	-------------	------	------------

学科	作業療法学科	年次	4	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業治療学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	作業療法学科各教員が臨床経験に基づき、それぞれの分野について教授する。										
授 業 概 要	作業療法専門領域の国家試験問題を解きながら知識を整理する。										
到 達 目 標	・身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害、地域における作業療法専門領域の知識を習得する。 ・身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害、地域における作業療法専門領域の用語を説明することができる。										

授 業 計 画											
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	作業療法の基礎①	作業療法の概要（制度や業務）について学習する。
2	作業療法の基礎②	作業療法の概要（制度や業務）について学習する。
3	作業療法の基礎③	作業動作分析について学習する。
4	作業療法の基礎④	作業動作分析について学習する。
5	作業療法評価学①	運動系感覚系の評価について学習する。
6	作業療法評価学②	運動系感覚系の評価について学習する。
7	作業療法評価学③	発達の評価について学習する。
8	作業療法評価学④	発達の評価について学習する。
9	作業療法評価学⑤	高次脳機能障害の評価について学習する。
10	作業療法評価学⑥	高次脳機能障害の評価について学習する。
11	作業療法評価学⑦	日常生活活動の評価について学習する。
12	作業療法評価学⑧	日常生活活動の評価について学習する。
13	作業療法評価学⑨	作業能力・職業関連活動の評価について学習する。
14	作業療法評価学⑩	作業能力・職業関連活動の評価について学習する。
15	作業療法評価学⑪	日常生活活動・作業能力・職業関連の総合評価について学習する。

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	作業療法評価学⑫	日常生活活動・作業能力・職業関連の総合評価について学習する。
17	作業療法評価学⑬	作業療法面接について学習する。
18	作業療法評価学⑭	作業療法面接について学習する。
19	作業療法治療学①	基本介入手段について学習する。
20	作業療法治療学②	基本介入手段について学習する。
21	作業療法治療学③	義肢学について学習する。
22	作業療法治療学④	義肢学について学習する。
23	作業療法治療学⑤	装具学について学習する。
24	作業療法治療学⑥	装具学について学習する。
25	作業療法治療学⑦	自助具・福祉用具について学習する。
26	作業療法治療学⑧	自助具・福祉用具について学習する。
27	地域作業療法学①	家庭生活支援について学習する。
28	地域作業療法学②	家庭生活支援について学習する。
29	地域作業療法学③	地域生活支援について学習する。
30	地域作業療法学④	地域生活支援について学習する。
準備学習（予習復習）の具体的な内容		特になし
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ % ）
教 科 書		担当教員より都度指示します。
参 考 書		担当教員より都度指示します。
授業の留意点・備考		特になし

科目名	作業療法専門分野特論Ⅱ	担当教員	作業療法学専任教員
-----	-------------	------	-----------

学科	作業療法学	年次	4	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業治療学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	作業療法学各教員が臨床経験に基づき、それぞれの分野について教授する。										
-----------	------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

授 業 概 要	作業療法専門領域の国家試験問題を解きながら知識を整理する。										
---------	-------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

到 達 目 標	・身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害、地域における作業療法専門領域の知識を習得する。 ・身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害、地域における作業療法専門領域の用語を説明することができる。										
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

授 業 計 画											
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	骨関節系障害領域①	関節リウマチ、変形性関節症について学習する。
2	骨関節系障害領域②	関節リウマチ、変形性関節症について学習する。
3	骨関節系障害領域③	骨折、外傷、損傷、上肢機能障害、頸椎性脊髄症について学習する。
4	骨関節系障害領域④	骨折、外傷、損傷、上肢機能障害、頸椎性脊髄症について学習する。
5	中枢神経系障害領域①	脳血管障害、高次脳機能障害、について学習する。
6	中枢神経系障害領域②	脳血管障害、高次脳機能障害、について学習する。
7	中枢神経系障害領域③	脊髄損傷、パーキンソン病について学習する。
8	中枢神経系障害領域④	脊髄損傷、パーキンソン病について学習する。
9	中枢神経系障害領域⑤	ALS、MS等について学習する。
10	中枢神経系障害領域⑥	ALS、MS等について学習する。
11	神経筋系障害領域①	ギラン・バレー症候群、筋ジストロフィー、末梢神経障害について学習する。
12	神経筋系障害領域②	ギラン・バレー症候群、筋ジストロフィー、末梢神経障害について学習する。
13	内部障害領域①	循環器障害、呼吸器障害、代謝障害について学習する。
14	内部障害領域②	循環器障害、呼吸器障害、代謝障害について学習する。
15	内部障害領域③	腎障害、老年期障害、癌について学習する。

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	内部障害領域④	腎障害、老年期障害、癌について学習する。
17	運動発達障害領域①	脳性麻痺、ダウン症について学習する。
18	運動発達障害領域②	脳性麻痺、ダウン症について学習する。
19	運動発達障害領域③	重症心身障害児、二分脊椎等について学習する。
20	運動発達障害領域④	重症心身障害児、二分脊椎等について学習する。
21	精神障害に対する作業療法介入①	精神障害総論、精神科集団作業療法について学習する。
22	精神障害に対する作業療法介入②	精神障害総論、精神科集団作業療法について学習する。
23	精神障害に対する作業療法介入③	知的障害、自閉症スペクトラム障害について学習する。
24	精神障害に対する作業療法介入④	知的障害、自閉症スペクトラム障害について学習する。
25	精神心理障害領域①	統合失調症、気分障害、神経症性障害について学習する。
26	精神心理障害領域②	統合失調症、気分障害、神経症性障害について学習する。
27	精神心理障害領域③	摂食障害、パーソナリティ障害、てんかんについて学習する。
28	精神心理障害領域④	摂食障害、パーソナリティ障害、てんかんについて学習する。
29	精神心理障害領域⑤	認知症、アルコール依存症、ADHDについて学習する。
30	精神心理障害領域⑥	認知症、アルコール依存症、ADHDについて学習する。
準備学習（予習復習）の具体的な内容		特になし
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ % ）
教 科 書		担当教員より都度指示します。
参 考 書		担当教員より都度指示します。
授業の留意点・備考		特になし

学科	作業療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	地域作業療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		地域での経験を活かし、地域でのOTの役割や制度について講義を行うことができる。									
授 業 概 要		・専門基礎分野及び基礎作業療法学等を基盤とし、地域リハビリテーションの概要や制度・サービス等について学習する。									
到 達 目 標		・地域リハビリテーションの概念や歴史、地域における作業療法士の役割について説明できる。 ・生活障害・ICF・の概念と評価及び生活障害に対するアプローチについて説明できる。 ・社会保障制度の枠組みについて説明できる。 ・ニーズ把握の重要性について説明でき、地域におけるチームアプローチについて説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 地域とは			地域という言葉について理解を深め、医療圏の分類ごとの内容について理解する。							
2	地域リハビリテーションの定義 ノーマライゼーションの理念・ICF			地域リハの定義を理解し、現在のリハ医療の流れ、それに至るまでのノーマライゼーションの理念やICFの考え方を再度確認する							
3	地域作業療法の概念と生活障害			地域のOTの概念および生活の捉え方や活動の分類、その人らしさとは何かを学習した上で、生活の戦略的捉え方や生活障害の評価について学習する。							
4	わが国における地域作業療法			日本OT協会の活動歴史を振り返り、地域のOTの役割や生活期リハのプロセスや地域リハアプローチの特徴等について学習する							
5	地域OTにおける作業の意義と適応			地域で求められる作業の内容はどんなことかについて学習する。地域における作業療法の実践モデルについて考え、医学モデルとの違いを確認する							
6	社会保障制度			社会保障制度の概要について学習し、それらの歴史的変遷と、それに伴うOTの位置づけの変化について学習する							
7	ケアマネジメントの概要			ケアマネジメントの概要（循環構造、アセスメントの方法、ケアプラン作成等ケアマネジメントプロセスについて）について学習する							
8	介護保険制度と健康日本21			介護保険制度や、介護予防施策、健康日本21におけるOTの役割を学習し、OT評価（IADL、AMPS）について学習する							
9	終末期リハビリテーション ニーズの分類とその意味			臓器提供に関する課題を行う。 ニーズの分類とその意味やアブラハムマズローの欲求の階層について学習する							
10	リスクマネジメント 地域における連携・協働			地域におけるリスクマネジメントの特徴について学習する 地域における連携・協働の必要性と連携する職種の業務や役割を学習する							
11	地域作業療法の実際			地域作業療法の各分野の役割とOTの役割について調べ学習を行い、それを発表する。							
12	生活行為向上マネジメント① （MTDLP）			生活行為向上マネジメントの概要（開発背景・社会背景、地域包括ケアシステム）について学習する （青山）							
13	生活行為向上マネジメント② （MTDLP）			生活行為向上マネジメントの内容（考え方解説、重要な視点、支援の流れ、シートの紹介・説明、シートの記入方法）について学習する （青山）							
14	生活行為向上マネジメント③ （MTDLP）			生活行為向上マネジメントの演習を行う（事例紹介、演習：聞き取り、アセスメントシート、プランシート） （青山）							
15	定期試験										
準備学習（予習復習）の具体的な内容		講義は復習中心で良いが、調べ学習では、各種文献や教科書をよく読み、疑問点を持って授業に臨むこと。不明な点は授業の解説時に質問をすること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ % ） ☒ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		標準作業療法学 専門分野 「地域作業療法学」第4版 大熊 明他編集 医学書院 （その他）資料を教員が用意する。									
参 考 書		特になし									
授業の留意点・備考		レポートや課題は出来て当たり前なので、未提出や遅延、内容不十分等は減点の対象とする。 今まで学んできた医学モデルと全く異なる生活モデルの考え方を学び、作業療法士として広い視野を持てるよう講義や演習に臨んでください。不明な点は積極的に質問して貴重な時間を有効活用すること。									

学科	作業療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	地域作業療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		精神科病院、訪問看護での臨床経験を生かし、地域で生活する精神障害者に対する治療的関わり、生活・就労支援・社会資源等について講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		精神障害者の生活障害とそれに対する支援・家族支援について学習する。法制度をはじめとした社会資源について学ぶ。精神医療の歴史から今後の方向性、セラピストの役割について学ぶ。									
到 達 目 標		①精神障害者の地域での生活特性、障害特性を説明できる。 ②社会資源を理解し、地域生活・就労・退院支援について説明できる。 ③家族の感情表出やそれに対する支援について説明できる。 ④精神医療の歴史の変遷、セラピストの役割について説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 精神障害者を取り巻く状況			授業概要の説明 近年の精神科医療の状況（入院中心から地域生活中心へ）について学ぶ。							
2	精神障害者と社会①			精神医療の歴史の変遷について学ぶ。							
3	精神障害者と社会②			歴史の変遷と現状、今後の課題、地域での作業療法士の役割について学ぶ。							
4	精神障害者の生活障害①			地域で暮らす精神障害者の生活障害・障害特性について学ぶ。							
5	精神障害者の生活障害②			生活モデルと医療モデルの違いを知り、地域生活支援の考え方を学ぶ。							
6	家族支援①			家族の心理、感情表出について学ぶ。							
7	家族支援②			家族に対する支援（家族心理教育など）について学ぶ							
8	長期入院の退院支援			長期入院者の現状・退院支援・地域移行支援について学ぶ							
9	再発予防			再発サイン、危機介入について学ぶ							
10	就労支援			就労移行支援とリワークについて学ぶ							
11	地域での取り組み			精神障害者の福祉的支援の現状について学ぶ							
12	特別講義			精神障害者に対するソーシャルワーク							
13	特別講義			精神障害を生きるということ（統合失調症を生きる当事者の語り）							
14	特別講義			精神障害を生きるということ（薬物依存を経験した当事者の語り）							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		授業内容を振り返り、理解するための自己学習に努めること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 90 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☒ 課題 （ 10 % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）									
教 科 書		なし									
参 考 書		※精神科作業療法の授業で使用したテキストを使用します									
授業の留意点・備考		グループワークなど参加型の授業の場合は、積極的に討議に参加すること。									

科目名		生活環境整備学						担当教員		有働 正二郎		
学科	作業療学科		年次	3	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容		地域作業療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床での経験を活かし、施設内や在宅での生活環境への支援について、講義・演習を行うことができる。										
授 業 概 要		人が生活する空間をその人に合わせた環境にするために、どのような視点で、どのような手段で、どのように援助していくのかについて学ぶ										
到 達 目 標		在宅及び施設での基本的な住宅環境整備について説明することができる 建築基準法上の基本的基準について説明することができる 疾患別の住宅改修のポイントを説明することができる										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	高齢者を取り巻く社会状況と住環境				高齢者の生活状況を知るとともに、住環境整備の重要性や必要性について学ぶ 介護保険制度の概要と高齢者向けの住宅施策の変遷について学ぶ							
2	障害者を取り巻く社会状況と住環境				障害者の生活と住環境について学ぶ 障害者福祉施策の概要と障害者向けの住宅施策の変遷について学ぶ							
3	在宅介護での自立支援のあり方①				在宅生活を支える介護の基本姿勢を学ぶ							
4	在宅介護での自立支援のあり方②				福祉住環境整備における移動能力の把握の重要性について学ぶ							
5	建築に関する基礎知識				日本の住宅の特徴、建築の基礎知識について学ぶ							
6	実践知識 建築図面のルールと読み方				図面の役割、図面のルールについて学ぶ							
7	生活環境整備の共通基本技術①				段差の解消について学ぶ							
8	生活環境整備の共通基本技術②				床材の選択、手すりの取り付け、建具への配慮について学ぶ							
9	生活環境整備の共通基本技術③				スペースの配慮、家具・収納への配慮、色彩・照明計画、インテリアへの配慮、冷暖房への配慮、非常時の対応、経費、維持管理への配慮について学ぶ							
10	疾患別生活環境整備①				脊髄損傷の特徴を知り、生活上の問題点と住環境整備について学ぶ							
11	疾患別生活環境整備②				脳卒中の特徴を知り、生活上の問題点と住環境整備について学ぶ							
12	疾患別生活環境整備③				リウマチの特徴を知り、生活上の問題点と住環境整備について学ぶ							
13	疾患別生活環境整備④				認知症の特徴を知り、生活上の問題点と住環境整備について学ぶ							
14	疾患別生活環境整備⑤				パーキンソン病の特徴を知り、生活上の問題点と住環境整備について学ぶ							
15	介護保険制度における住宅改修				給付内容や手順、そのポイントについて学ぶ							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	現場におけるリハビリテーション	生活機能低下改善に対する支援、考え方について学ぶ
17	居室の環境整備	できるだけ早く実施する環境整備とある程度の期間生活をみて実施する環境整備について学ぶ
18	起居動作	寝返り、ベッド上の移動、起き上がりについて学ぶ
19	移乗の介助	立っての移乗、座位での移乗、全介助による移乗について学ぶ
20	移動の介助	車椅子による移動と車椅子の適合の事例、歩行の環境整備について学ぶ
21	食事の介助	食事の環境づくりと食事に関わるさまざまな環境について学ぶ
22	移動面からみた排泄と入浴の介助	トイレの環境整備、入浴介助に伴う動作について学ぶ
23	機能訓練のあり方、在宅復帰への支援	廃用症候群 機能障害に対する機能訓練の事例、在宅復帰への支援について学ぶ
24	福祉用具と住宅改修、在宅での生活環境への支援①	福祉用具と住宅改修導入のポイント 玄関への支援について学ぶ
25	在宅での生活環境への支援②	排泄環境への支援について学ぶ
26	在宅における入浴支援、在宅復帰に向けたアプローチ	着替えの準備、浴室までの移動、脱衣所、浴室出入り口、浴槽出入り、湯船につかる、体を洗う・洗髪、衣服の着脱 事例について学ぶ
27	出かけよう！、楽しみながら観察力を向上させよう	なぜ出かけることが重要なのか、どんな方法が有効か、出かけない・出かけられない理由は、 車への移乗 観察力を高める工夫について学ぶ
28	シーティング演習①	車椅子の採寸をやってみよう。車椅子からの移乗演習 標準型車椅子のフットプレート・キャスターブレーキの調整方法について学ぶ
29	シーティング演習② 福祉用具を用いた移乗の実践	モジュラー型車椅子について学ぶ スライディングボード演習、床走行リフター演習
30	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める
準備学習（予習復習）の具体的な内容		しっかりと復習をすること
成 績 評 価		☒ 定期試験 （ 100 % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☒ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ ）
教 科 書		①「福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト」、東京商工会議所編、②福祉住環境コーディネーター検定試験2級過去問題集 2024年版、③O T ・ P Tのための住環境整備論第2版、三輪書店 ④「リハビリテーションからみた介護技術」、中央法規
参 考 書		特になし
授業の留意点・備考		レポート課題やグループワークがあるため、積極的に参画すること（レポート未提出や不十分の場合は減点する） 福祉住環境コーディネーター2級を受験すること

科目名	作業療法見学実習						担当教員	臨床実習指導者 作業療法学科教員			
-----	----------	--	--	--	--	--	------	---------------------	--	--	--

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	45	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	臨床実習						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験											
授 業 概 要		医療機関もしくは介護老人保健施設で行う1週間の見学実習である。									
到 達 目 標		社会人としての基本的な態度を身につける。対象者とのコミュニケーションを図る。作業療法のイメージを持つことができる。作業療法に関する興味・関心を深め、自らの課題を自覚し、今後の学習につなげることができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	臨床作業療法の見学				令和7年8月25日（月）～8月30日（土）までの1週間						
2					各々の臨床実習施設で実施する						
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☒ その他 （ 臨床実習指導者による評価・レポート等 提出物・実習報告会内容 ）									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名	精神科見学実習							担当教員	臨床実習指導者 作業療法学科教員		
学科	作業療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	90	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	臨床実習						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験											
授 業 概 要		精神科医療機関で行う2週間の見学実習である。									
到 達 目 標		精神科領域の作業療法実践の場を見学・経験することで、精神に障害を持つ対象者への作業療法実践において求められる基本的態度や知識を習得し、その後の学習へと繋げる。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	精神科作業療法の見学・経験				令和7年8月18日（月）～8月30日（土）までの2週間						
2					各々の臨床実習施設で実施する						
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容		精神障害治療学Ⅰ・作業療法評価法Ⅳの授業を振り返り、精神科作業療法について学習した内容を整理しておくこと									
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☐ その他 （ 臨床実習指導者による評価・レポート等 提出物・実習報告会内容 ）									
教 科 書		精神障害治療学Ⅰ・作業療法評価法Ⅳの授業で使用したテキストを持参すること									
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名	評価実習						担当教員	臨床実習指導者			
-----	------	--	--	--	--	--	------	---------	--	--	--

学科	作業療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	4	時数	180	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	臨床実習						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験											
授 業 概 要		身体障害領域の作業療法を実践する一般病院で行う、評価を中心とした4週間の実習（1週のOSCEを含む）である。									
到 達 目 標		1. 評価を系統的に習得し、その技術や考察の方法を習得する 2. 実習施設における作業療法および作業療法士の役割機能を学ぶ 3. 障害を持つ人に対する臨床家としての姿勢と、組織の一員としての姿勢を学ぶ									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	評価計画の立案			身体障害領域における作業療法評価の計画を立てる							
2	評価の実施			面接・観察・情報収集・検査・測定などの評価を実施する							
3	全体像のまとめと焦点化			評価結果から全体像をまとめ、問題点を焦点化する							
4	予後予測			評価結果に基づいて将来像を予測する							
5	目標設定			長期目標・短期目標を設定する							
6	作業療法計画の立案			治療・指導・援助計画を立案する							
7	記録報告			評価結果を記録・報告する							
8	作業療法過程の理解			実習を通して身体障害領域における作業療法の過程を理解する							
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☒ 課題 （ % ） ☒ 発表 （ % ） ☒ その他 （ 臨床実習指導者の評価、報告会発表態度 等 を総合的に評価する ）									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名	総合臨床実習Ⅰ						担当教員	臨床実習指導者 作業療法学科教員		
-----	---------	--	--	--	--	--	------	---------------------	--	--

学科	作業療法学科	年次	4	開講期	前期	単位数	8	時数	360	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	臨床実習						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床実習指導者は臨床経験5年以上、作業療法学科教員は臨床経験5年以上の経験を有している。									
授 業 概 要		身体障害もしくは精神障害各領域における9週間の臨床実習である。									
到 達 目 標		人の心身の発達、構造について医学的、専門的知識から理解し、深い人間愛を持って対象者の抱える課題を把握し、治療し、社会への適応を援助していくために実践的研究的態度と能力を身につける。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1						令和7年4月14日（月）～6月14日（土）までの9週間					
2						各々の臨床実習施設で実施する					
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の 具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☒ その他 （ 臨床実習指導者による評価・症例レポート等提出物・症例報告会内容・試験 ）									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考		担当ケース1事例を症例レポートとしてまとめ、実習終了後に報告会レジュメとあわせて速やかに提出すること									

科目名	総合臨床実習Ⅱ						担当教員	臨床実習指導者 作業療法学科教員		
-----	---------	--	--	--	--	--	------	---------------------	--	--

学科	作業療法学科	年次	4	開講期	前期	単位数	8	時数	360	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	臨床実習						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床実習指導者は臨床経験5年以上, 作業療法学科教員は臨床経験5年以上の経験を有している。									
授 業 概 要		身体障害もしくは精神障害各領域における8週間の臨床実習である。									
到 達 目 標		人の心身の発達、構造について医学的、専門的知識から理解し、深い人間愛を持って対象者の抱える課題を把握し、治療し、社会への適応を援助していくために実践的研究の態度と能力を身につける。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1						令和7年6月23日（月）～8月16日（土）までの8週間					
2						各々の臨床実習施設で実施する					
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☒ その他 （ 臨床実習指導者による評価・症例レポート等提出物・症例報告会内容・試験 ）									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考		担当ケース1事例を症例レポートとしてまとめ、実習終了後に報告会レジュメとあわせて速やかに提出すること									

科目名	地域実習						担当教員	臨床実習指導者 作業療法学科教員		
-----	------	--	--	--	--	--	------	---------------------	--	--

学科	作業療法学科	年次	4	開講期	前期	単位数	4	時数	180	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	臨床実習						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床実習指導者は臨床経験5年以上、作業療法学科教員は臨床経験5年以上の経験を有している。									
授 業 概 要		地域領域における4週間の臨床実習である。									
到 達 目 標		総合臨床実習Ⅰ期及びⅡ期から次のステップとして障害者（児）の地域生活を支えるための作業療法について学び、実践的研究的態度と能力を身につける。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1					令和7年8月25日（月）～9月20日（土）までの4週間						
2					各々の臨床実習施設で実施する						
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験 （ % ） ☐ 実技試験 （ % ） ☐ 小テスト （ % ） ☐ レポート （ % ） ☐ 課題 （ % ） ☐ 発表 （ % ） ☒ その他 （ 臨床実習指導者による評価・症例レポート等提出物・症例報告会内容・試験 ）									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考		担当ケース1事例を症例レポートとしてまとめ、実習終了後に報告会レジュメとあわせて速やかに提出すること									